

令和8年度第1回献血推進調査会の概要について

【献血推進調査会 当日資料】

・資料1-1	令和7年度供給・献血実績等について（日本赤十字社提出資料）	1
・資料1-2	献血推進の施策について（厚生労働省の取組）	21
・資料1-3	令和7年度の献血実績と今後の方向性について	25
・資料2	「献血推進2025」の中間評価について	28
・資料3	下半期モニタリング結果について	31
・参考資料1	献血の現状（日本赤十字社提出資料）	34
・参考資料2-1	献血普及啓発ボランティア活動発表会募集要項	43
・参考資料2-2	献血普及啓発ボランティア活動発表会受賞作品	47
・参考資料3	経済財政運営と改革の基本方針2025（抜粋）	49
・参考資料4	献血推進2025	50
・参考資料5	成長戦略主要な製品・技術等の官民投資ロードマップ素案	52
・参考資料6	免疫グロブリン製剤の概要	58



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和8年度第1回献血推進調査会
資料1－1



令和7年度供給・献血実績等について

令和8年7月1日(水)

薬事審議会血液事業部会献血推進調査会

1 令和7年度採血・供給状況

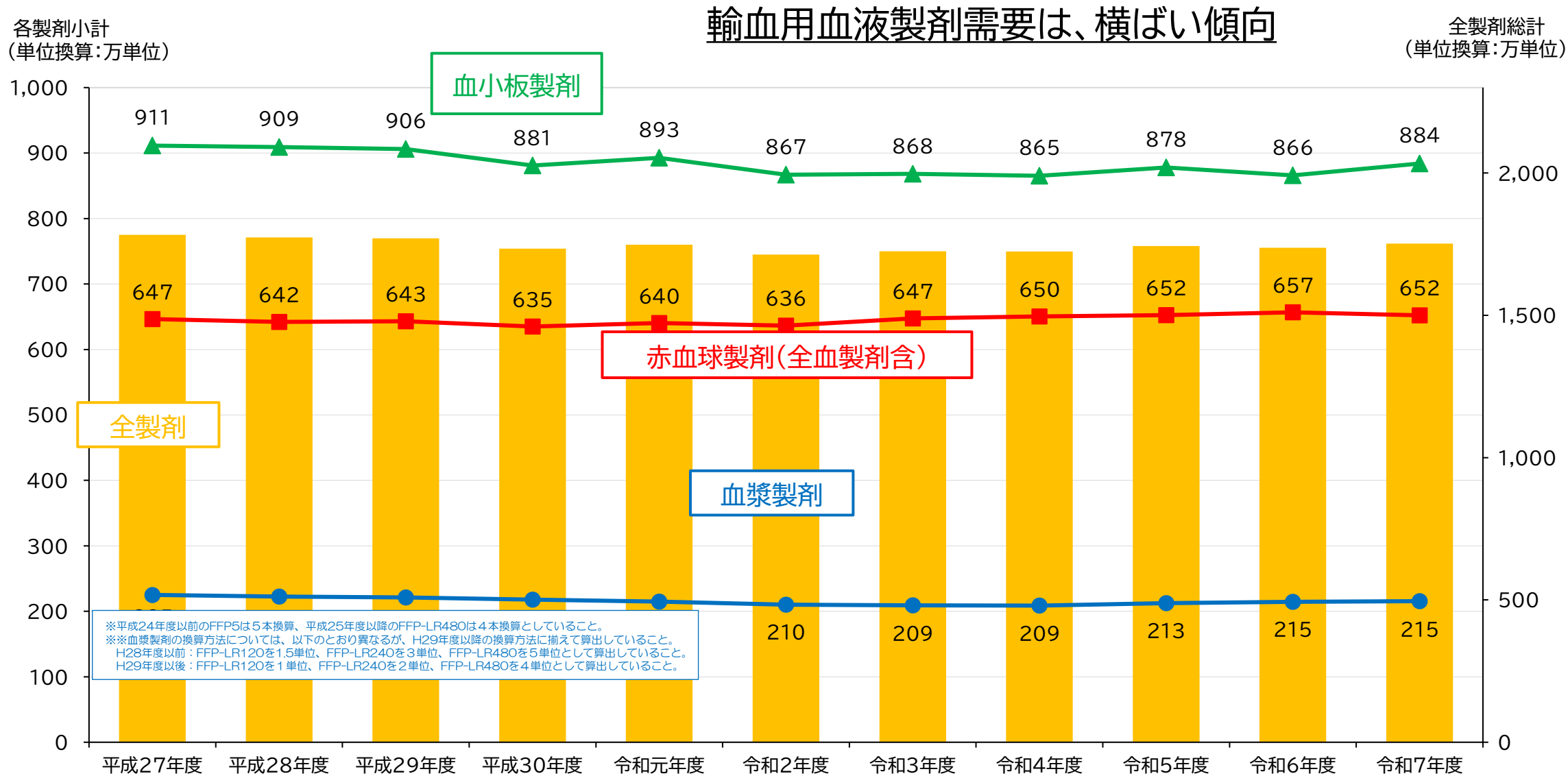
(1)事業概況

供給実績 (輸血用血液製剤 供給数)	赤血球製剤	652万単位(333万バッグ)	合計 <u>1,752万単位</u> (507万バッグ)
	血漿製剤	215万単位(90万バッグ)	
	血小板製剤	884万単位(85万バッグ)	
供給実績 (血漿分画製剤用 原料血漿供給量)	凝固製剤用	14万L	合計 <u>120万L</u>
	一般製剤用	106万L	
採血実績 (献血者数)	全血献血	343万人	合計 <u>500万人</u>
	血漿成分献血	99万人	
	血小板成分献血	57万人	

※ 供給数は200mL全血献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。
カッコ内は実バッグ数。

※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと

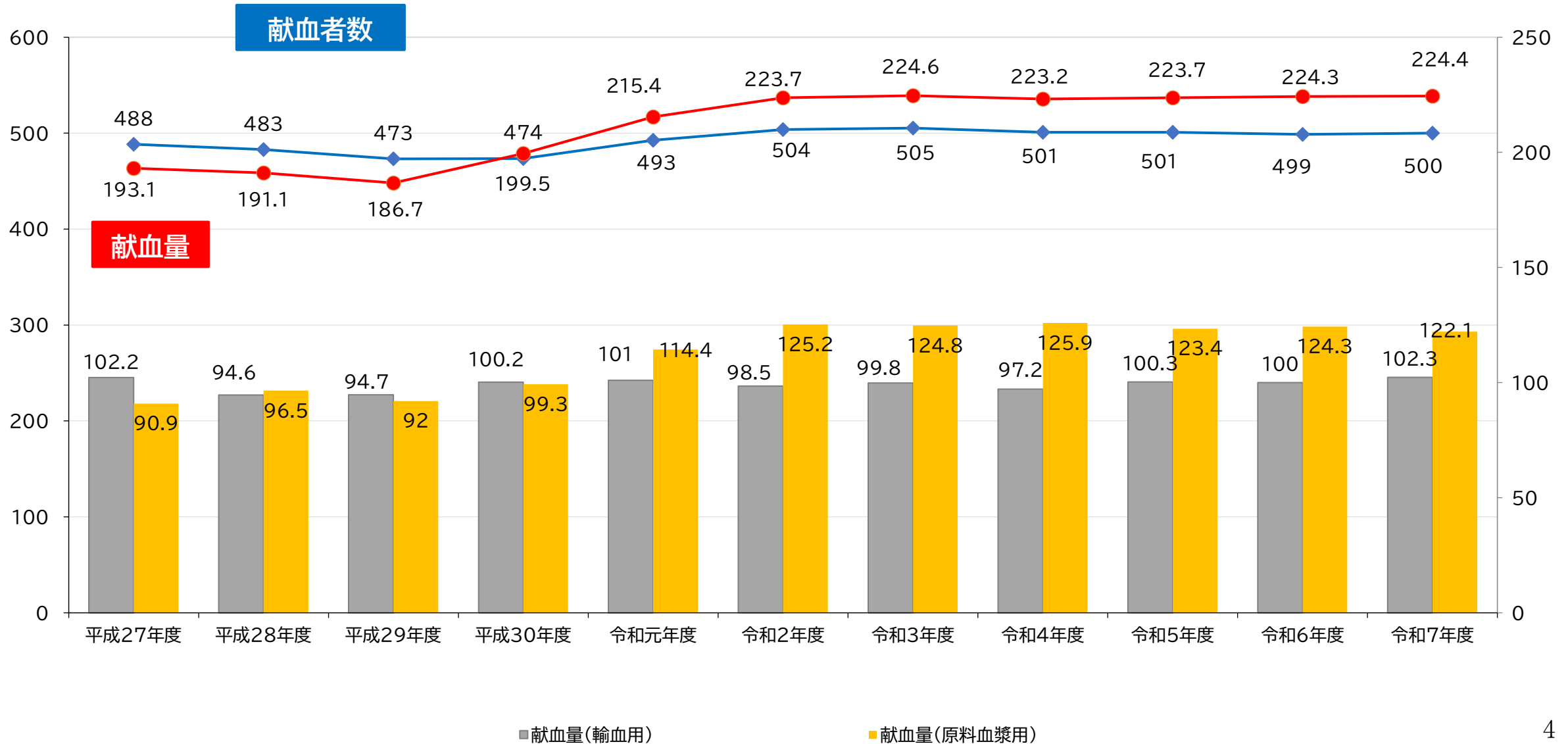
(2)輸血用血液製剤における供給実績の推移



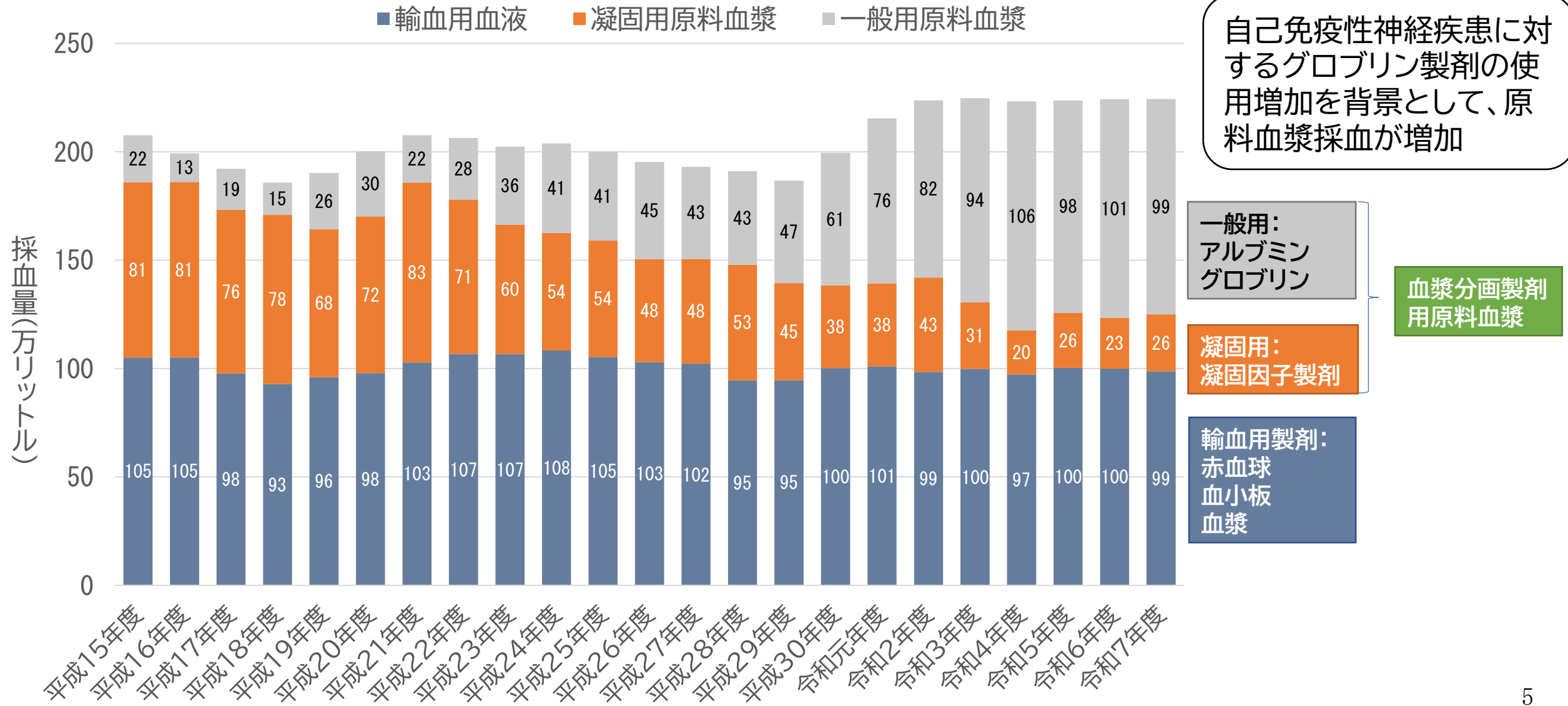
(3) 献血者数と献血量

(万人)

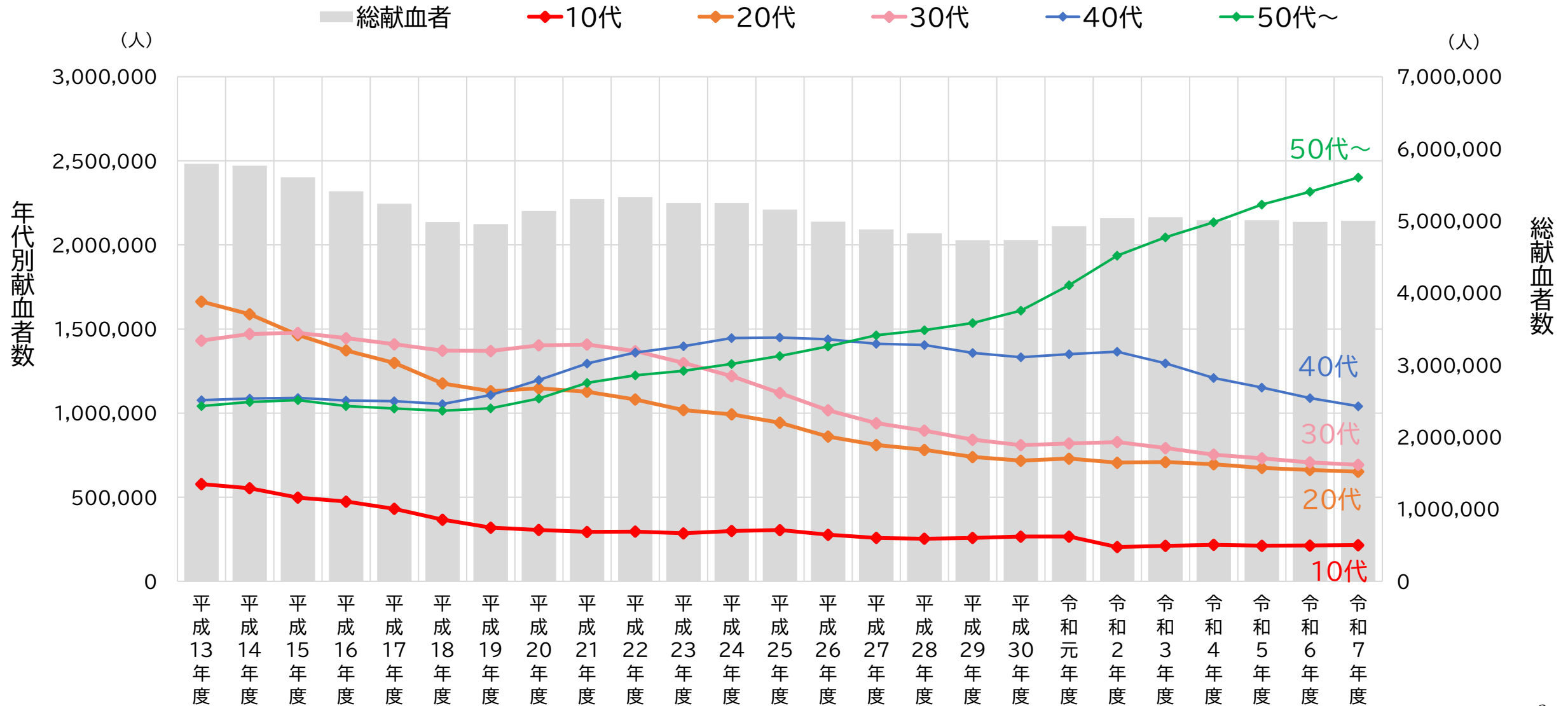
(万L)



(4) 輸血用血液と原料血漿の採血量

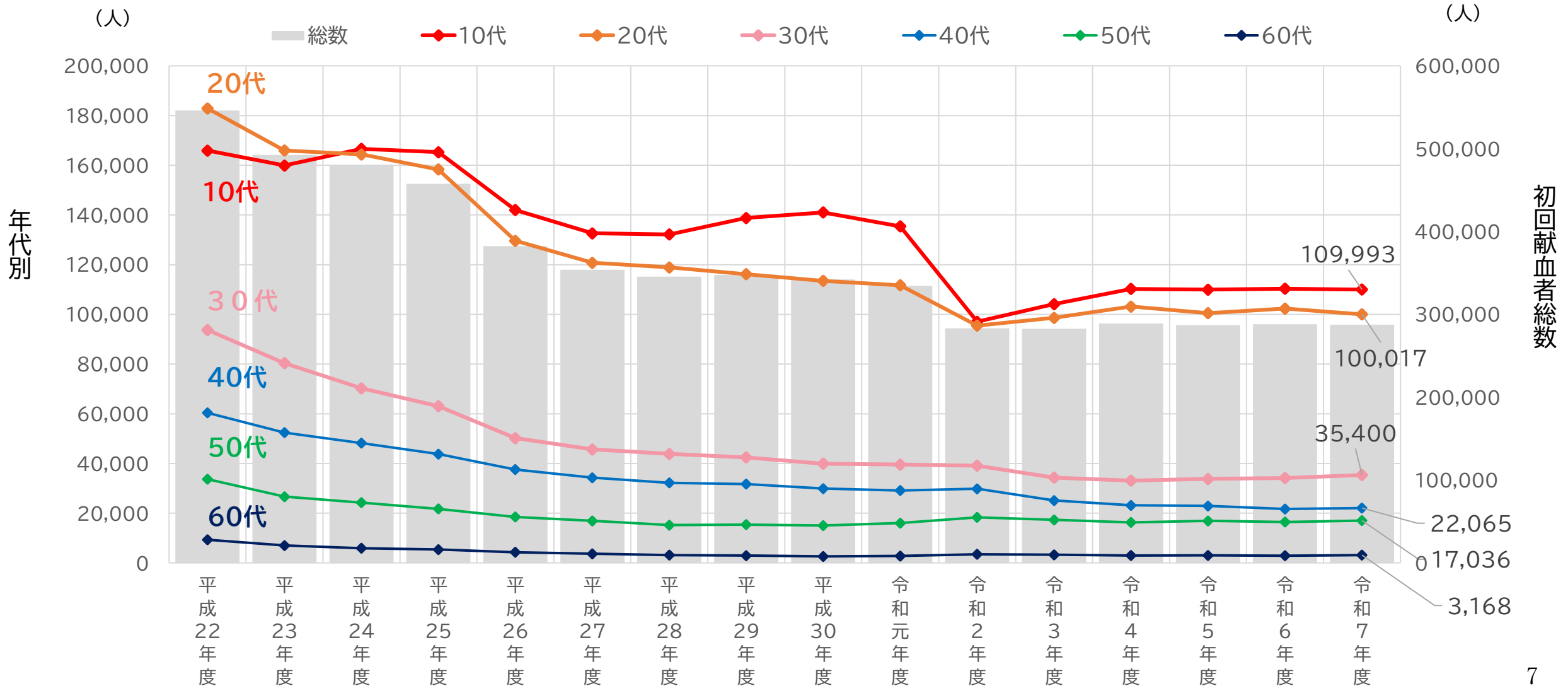


(5) 延べ献血者数(年代別・総数)



(6)初回献血者(年代別、総数)

令和6年度比で、10代 346人減(-0.3%)、
20代 2,315人減(-2.3%)、30代 1,230人増(+3.6%)であった。

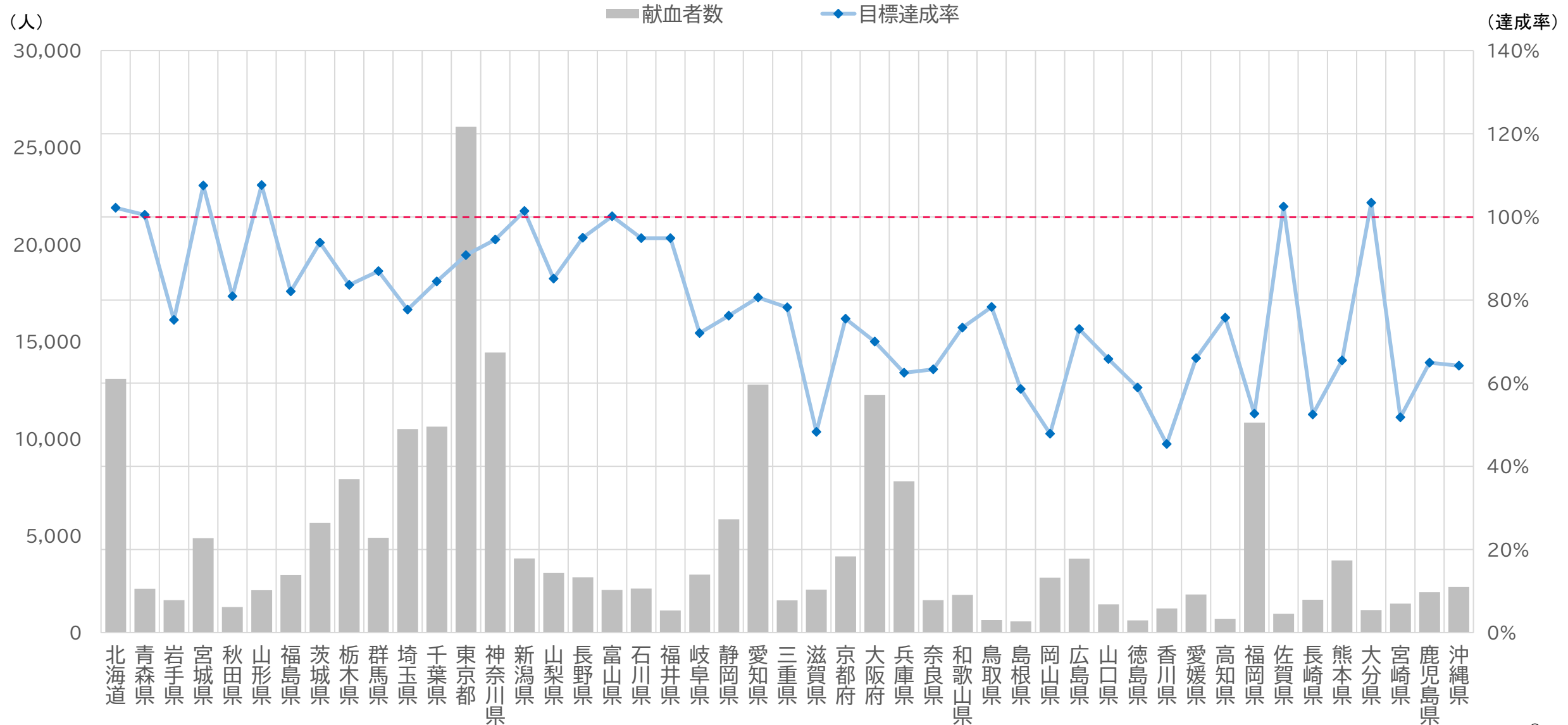


(7)都道府県別10代献血者数

年代	10代				
	16歳～19歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (R6年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	12,800	13,081	12,437	102.2%	105.2%
北海道ブロック	12,800	13,081	12,437	102.2%	105.2%
青森県	2,246	2,257	2,447	100.5%	92.2%
岩手県	2,229	1,676	1,836	75.2%	91.3%
宮城県	4,524	4,866	4,643	107.6%	104.8%
秋田県	1,627	1,316	1,405	80.9%	93.7%
山形県	2,034	2,189	2,341	107.6%	93.5%
福島県	3,612	2,964	2,917	82.1%	101.6%
東北ブロック	16,272	15,268	15,589	93.8%	97.9%
茨城県	6,754	5,649	5,952	83.6%	94.9%
栃木県	9,104	7,916	8,124	87.0%	97.4%
群馬県	6,293	4,890	5,401	77.7%	90.5%
埼玉県	12,424	10,493	10,666	84.5%	98.4%
千葉県	11,694	10,619	10,610	90.8%	100.1%
東京都	27,567	26,067	25,108	94.6%	103.8%
神奈川県	14,242	14,441	13,340	101.4%	108.3%
新潟県	4,491	3,824	3,584	85.1%	106.7%
山梨県	3,239	3,076	2,898	95.0%	106.1%
長野県	2,849	2,853	2,865	100.1%	99.6%
関東甲信越ブロック	98,657	89,828	88,548	91.1%	101.4%
富山県	1,989	2,195	2,316	110.4%	94.8%
石川県	2,391	2,269	2,287	94.9%	99.2%
福井県	1,580	1,138	1,027	72.0%	110.8%
岐阜県	3,928	2,994	3,347	76.2%	89.5%
静岡県	7,238	5,833	6,154	80.6%	94.8%
愛知県	16,343	12,786	13,129	78.2%	97.4%
三重県	3,449	1,665	1,690	48.3%	98.5%
東海北陸ブロック	36,918	28,880	29,950	78.2%	96.4%

年代	10代				
	16歳～19歳				
滋賀県	2,938	2,218	2,259	75.5%	98.2%
京都府	5,607	3,925	3,528	70.0%	111.3%
大阪府	19,599	12,251	11,788	62.5%	103.9%
兵庫県	12,315	7,797	7,263	63.3%	107.4%
奈良県	2,276	1,670	1,571	73.4%	106.3%
和歌山県	2,486	1,947	1,956	78.3%	99.5%
近畿ブロック	45,221	29,808	28,365	65.9%	105.1%
鳥取県	1,119	656	632	58.6%	103.8%
島根県	1,208	578	507	47.8%	114.0%
岡山県	3,874	2,828	3,117	73.0%	90.7%
広島県	5,796	3,813	4,049	65.8%	94.2%
山口県	2,477	1,460	1,487	58.9%	98.2%
徳島県	1,382	627	577	45.4%	108.7%
香川県	1,892	1,249	1,321	66.0%	94.5%
愛媛県	2,600	1,969	2,122	75.7%	92.8%
高知県	1,364	718	761	52.6%	94.3%
中四国ブロック	21,712	13,898	14,573	64.0%	95.4%
福岡県	10,563	10,823	10,365	102.5%	104.4%
佐賀県	1,853	972	867	52.5%	112.1%
長崎県	2,596	1,700	1,663	65.5%	102.2%
熊本県	3,600	3,723	3,294	103.4%	113.0%
大分県	2,245	1,163	1,234	51.8%	94.2%
宮崎県	2,300	1,494	1,192	65.0%	125.3%
鹿児島県	3,235	2,077	1,822	64.2%	114.0%
沖縄県	3,548	2,348	2,474	66.2%	94.9%
九州ブロック	29,940	24,300	22,911	81.2%	106.1%
合計	261,520	215,063	212,373	82.2%	101.3%
差異 (R7-R6)	+2,690				

都道府県別10代献血者数(グラフ)

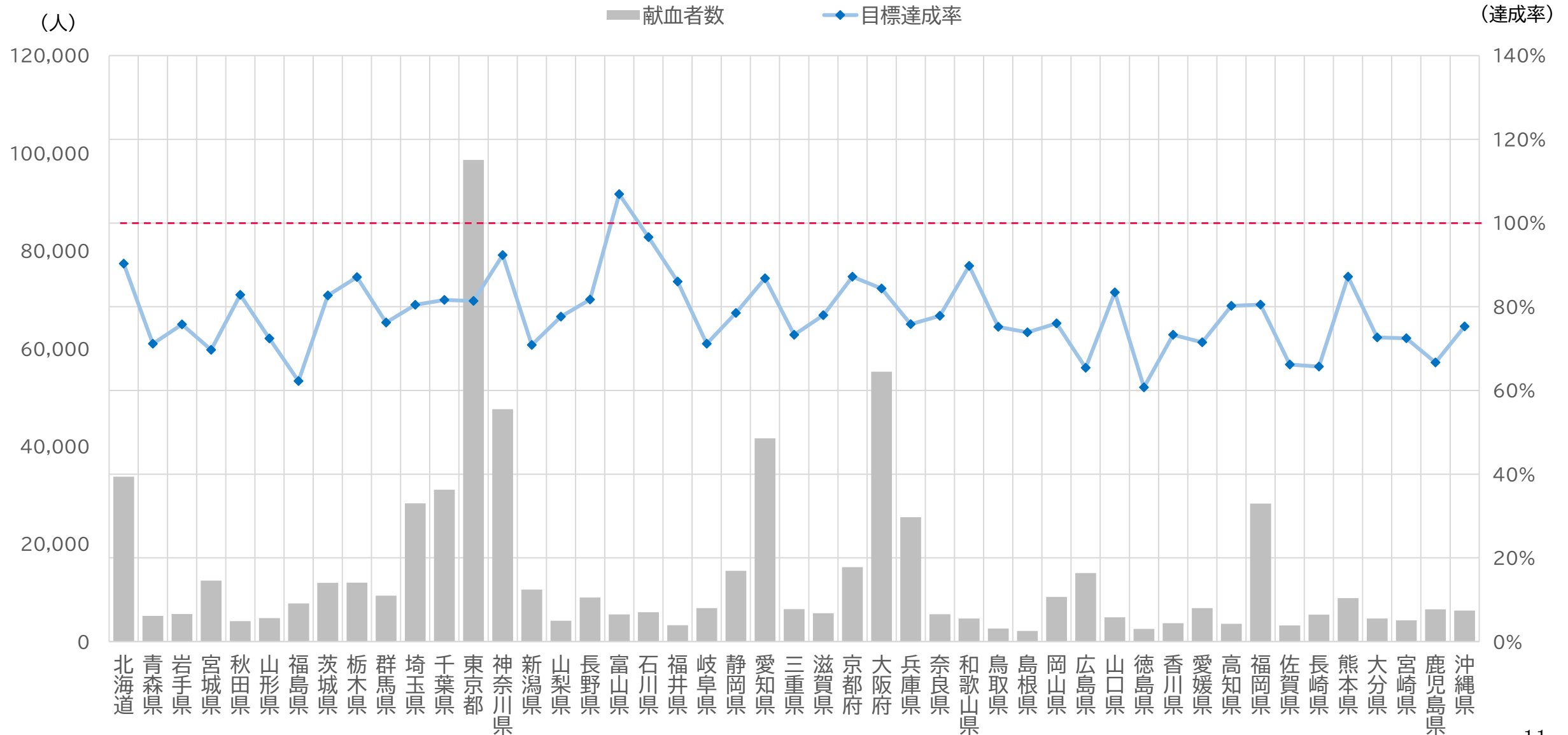


(8)都道府県別20代献血者数

年代	20代				
	20～29歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (R6年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	37,400	33,759	33,530	90.3%	100.7%
北海道ブロック	37,400	33,759	33,530	90.3%	100.7%
青森県	7,408	5,270	5,730	71.1%	92.0%
岩手県	7,465	5,657	5,937	75.8%	95.3%
宮城県	17,892	12,473	12,694	69.7%	98.3%
秋田県	5,071	4,200	4,488	82.8%	93.6%
山形県	6,610	4,787	5,125	72.4%	93.4%
福島県	12,536	7,805	8,310	62.3%	93.9%
東北ブロック	56,982	40,192	42,284	70.5%	95.1%
茨城県	14,560	12,042	12,581	82.7%	95.7%
栃木県	13,864	12,075	12,038	87.1%	100.3%
群馬県	12,356	9,415	9,659	76.2%	97.5%
埼玉県	35,192	28,314	29,735	80.5%	95.2%
千葉県	38,123	31,115	31,669	81.6%	98.3%
東京都	121,163	98,623	100,289	81.4%	98.3%
神奈川県	51,559	47,597	45,225	92.3%	105.2%
新潟県	15,038	10,652	11,037	70.8%	96.5%
山梨県	5,480	4,255	4,257	77.6%	100.0%
長野県	11,026	9,012	8,906	81.7%	101.2%
関東甲信越ブロック	318,361	263,100	265,396	82.6%	99.1%
富山県	5,184	5,541	5,857	106.9%	94.6%
石川県	6,216	6,007	6,305	96.6%	95.3%
福井県	3,892	3,348	3,293	86.0%	101.7%
岐阜県	9,618	6,842	7,080	71.1%	96.6%
静岡県	18,437	14,475	14,205	78.5%	101.9%
愛知県	47,962	41,622	43,533	86.8%	95.6%
三重県	9,047	6,632	6,847	73.3%	96.9%
東海北陸ブロック	100,356	84,467	87,120	84.2%	97.0%

年代	20代				
	20～29歳				
滋賀県	7,452	5,809	6,125	78.0%	94.8%
京都府	17,500	15,257	15,050	87.2%	101.4%
大阪府	65,500	55,256	55,914	84.4%	98.8%
兵庫県	33,587	25,475	25,356	75.8%	100.5%
奈良県	7,180	5,586	5,524	77.8%	101.1%
和歌山県	5,259	4,721	4,710	89.8%	100.2%
近畿ブロック	136,478	112,104	112,679	82.1%	99.5%
鳥取県	3,550	2,670	2,858	75.2%	93.4%
島根県	2,931	2,165	2,261	73.9%	95.8%
岡山県	12,032	9,148	9,961	76.0%	91.8%
広島県	21,440	14,027	14,470	65.4%	96.9%
山口県	5,956	4,968	5,220	83.4%	95.2%
徳島県	4,267	2,592	2,497	60.7%	103.8%
香川県	5,121	3,753	3,908	73.3%	96.0%
愛媛県	9,615	6,872	7,134	71.5%	96.3%
高知県	4,522	3,628	3,608	80.2%	100.6%
中四国ブロック	69,434	49,823	51,917	71.8%	96.0%
福岡県	35,128	28,283	29,387	80.5%	96.2%
佐賀県	5,017	3,320	3,320	66.2%	100.0%
長崎県	8,376	5,501	5,657	65.7%	97.2%
熊本県	10,200	8,892	8,599	87.2%	103.4%
大分県	6,489	4,716	4,888	72.7%	96.5%
宮崎県	6,010	4,356	4,354	72.5%	100.0%
鹿児島県	9,900	6,602	6,587	66.7%	100.2%
沖縄県	8,460	6,368	6,273	75.3%	101.5%
九州ブロック	89,580	68,038	69,065	76.0%	98.5%
合計	808,591	651,483	661,991	80.6%	98.4%
差異 (R7-R6)	-10,508				

都道府県別20代献血者数(グラフ)

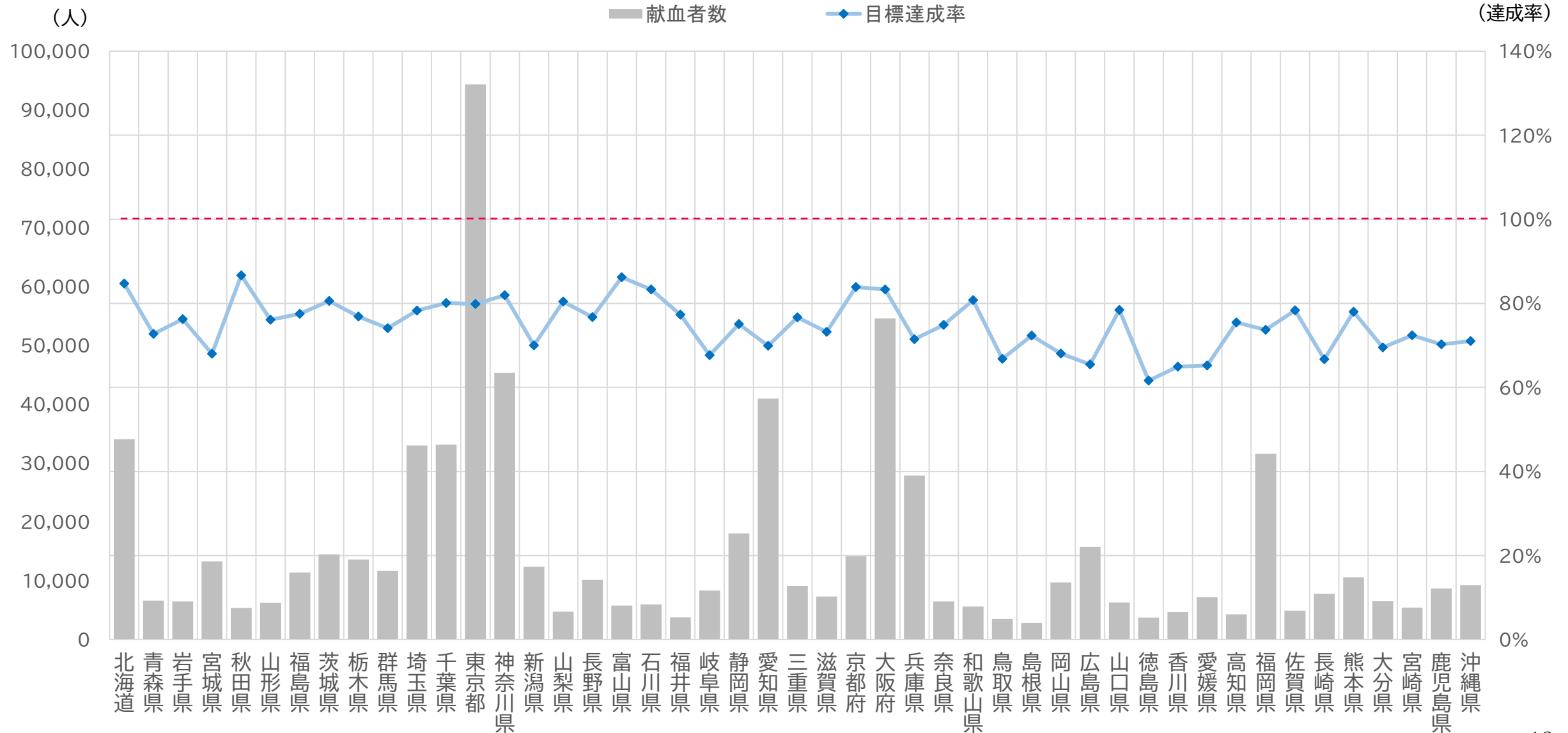


(9)都道府県別30代献血者数

年代	30代				
	30～39歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (R6年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	40,000	33,875	34,056	84.7%	99.5%
北海道ブロック	40,000	33,875	34,056	84.7%	99.5%
青森県	8,561	6,227	6,641	72.7%	93.8%
岩手県	8,561	6,528	6,489	76.3%	100.6%
宮城県	19,103	12,993	13,316	68.0%	97.6%
秋田県	6,069	5,259	5,386	86.7%	97.6%
山形県	7,539	5,735	6,247	76.1%	91.8%
福島県	14,056	10,895	11,390	77.5%	95.7%
東北ブロック	63,889	47,637	49,469	74.6%	96.3%
茨城県	17,551	14,142	14,498	80.6%	97.5%
栃木県	17,168	13,194	13,630	76.9%	96.8%
群馬県	15,188	11,252	11,686	74.1%	96.3%
埼玉県	40,511	31,718	32,990	78.3%	96.1%
千葉県	40,476	32,409	33,132	80.1%	97.8%
東京都	117,356	93,703	94,356	79.8%	99.3%
神奈川県	56,009	45,887	45,335	81.9%	101.2%
新潟県	16,995	11,898	12,408	70.0%	95.9%
山梨県	5,843	4,700	4,752	80.4%	98.9%
長野県	12,983	9,960	10,126	76.7%	98.4%
関東甲信越ブロック	340,080	268,863	272,913	79.1%	98.5%
富山県	6,233	5,374	5,789	86.2%	92.8%
石川県	7,094	5,908	5,976	83.3%	98.9%
福井県	4,879	3,771	3,779	77.3%	99.8%
岐阜県	11,836	8,011	8,316	67.7%	96.3%
静岡県	23,771	17,840	18,031	75.0%	98.9%
愛知県	56,862	39,754	40,956	69.9%	97.1%
三重県	11,362	8,711	9,128	76.7%	95.4%
東海北陸ブロック	122,037	89,369	91,975	73.2%	97.2%

年代	30代				
	30～39歳				
滋賀県	9,560	7,000	7,330	73.2%	95.5%
京都府	16,100	13,507	14,182	83.9%	95.2%
大阪府	66,300	55,207	54,583	83.3%	101.1%
兵庫県	37,715	26,954	27,893	71.5%	96.6%
奈良県	8,260	6,184	6,471	74.9%	95.6%
和歌山県	6,800	5,490	5,623	80.7%	97.6%
近畿ブロック	144,735	114,342	116,082	79.0%	98.5%
鳥取県	4,850	3,238	3,503	66.8%	92.4%
島根県	3,844	2,781	2,820	72.3%	98.6%
岡山県	13,908	9,464	9,727	68.0%	97.3%
広島県	23,377	15,306	15,768	65.5%	97.1%
山口県	7,830	6,142	6,317	78.4%	97.2%
徳島県	5,732	3,532	3,726	61.6%	94.8%
香川県	7,066	4,588	4,673	64.9%	98.2%
愛媛県	11,010	7,182	7,222	65.2%	99.4%
高知県	5,452	4,113	4,283	75.4%	96.0%
中四国ブロック	83,069	56,346	58,039	67.8%	97.1%
福岡県	40,946	30,170	31,553	73.7%	95.6%
佐賀県	6,228	4,879	4,915	78.3%	99.3%
長崎県	10,907	7,275	7,787	66.7%	93.4%
熊本県	13,200	10,293	10,587	78.0%	97.2%
大分県	8,951	6,223	6,513	69.5%	95.5%
宮崎県	7,500	5,429	5,455	72.4%	99.5%
鹿児島県	12,100	8,499	8,694	70.2%	97.8%
沖縄県	13,100	9,306	9,220	71.0%	100.9%
九州ブロック	112,932	82,074	84,724	72.7%	96.9%
合計	906,742	692,506	707,258	76.4%	97.9%
差異 (R7-R6)	-14,752				

都道府県別30代献血者数(グラフ)



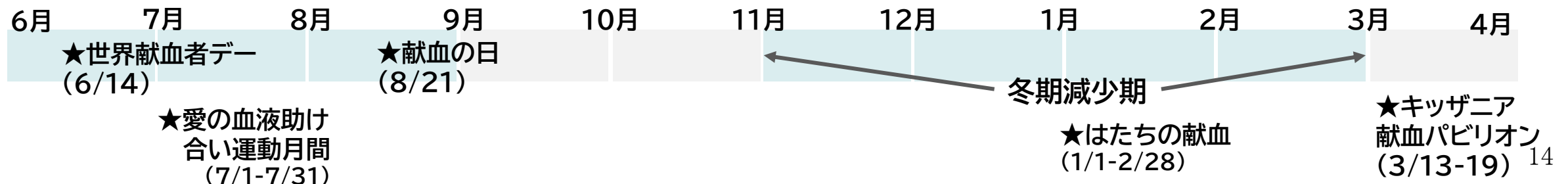
2 年間を通じた広報施策

(1)年間スケジュール

献血が国民運動であることを広く周知し、人口減少を続ける若年層の人たちが献血したくなるような機運を醸成し、献血を経験した人たちには継続的に献血にご協力いただき、また献血運動の普及に関わっていただけるように、一年間を通じてさまざまな施策を実施し、広く国民各層へ献血に関する理解と協力を求める。

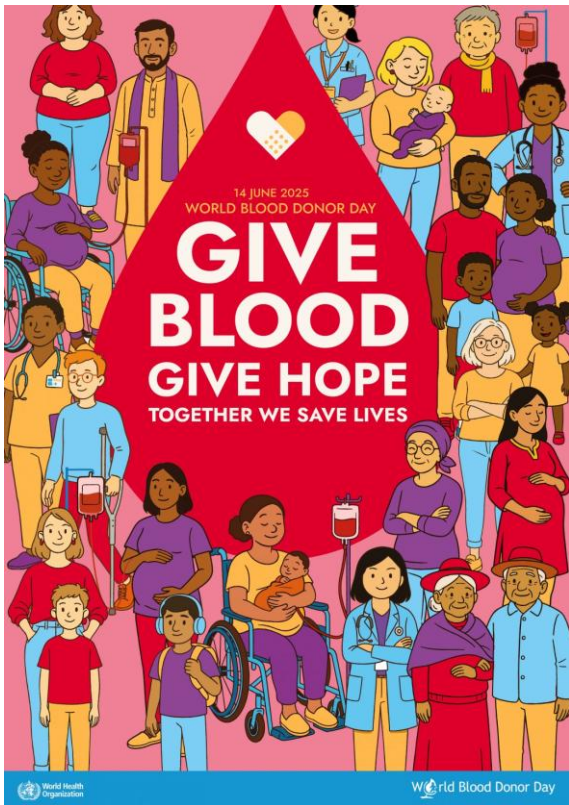
テレビCMの放映状況

6月期 865本 11月期 1,400本 1月・2月期 870本



(2)6月14日「世界献血者デー」

世界献血者デーは、献血者への感謝と、献血の必要性を知ってもらうために世界各国で行われている。都内で、世界献血者デーの限定バルーンを配布。全国の献血ルームでは、日ごろの献血への感謝を込めて献血者に限定バルーン(ミニバージョン)を配布。



▲世界献血者デーのポスター
(世界保健機構作成)



▲渋谷で限定バルーンを配布



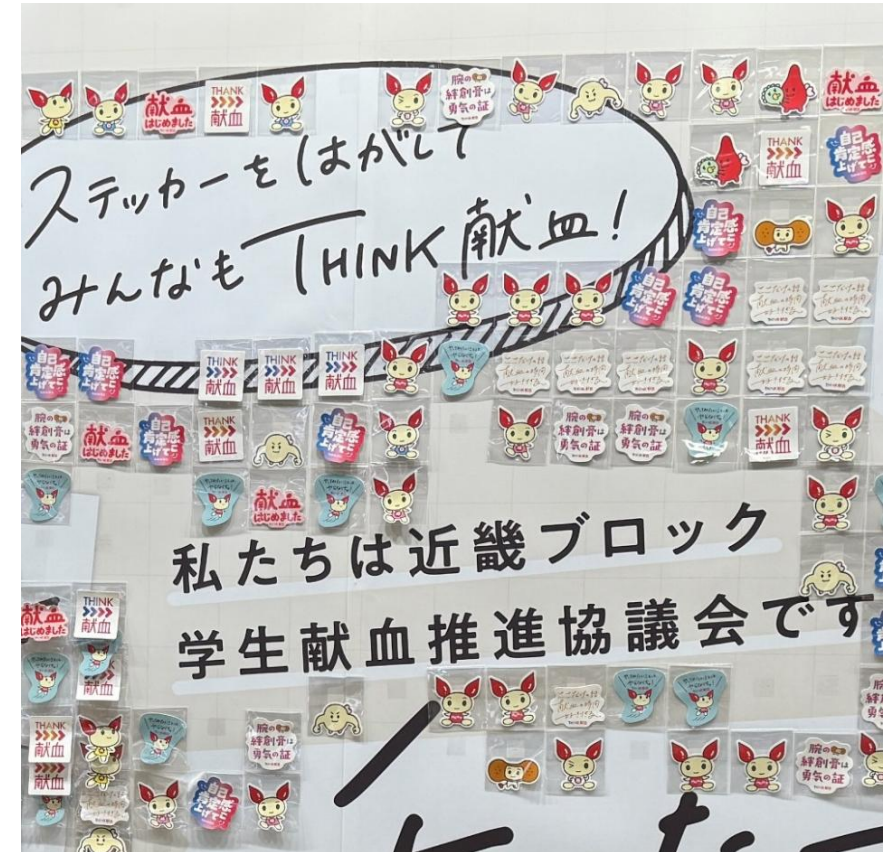
▲献血ルームで配布したミニバルーン

(3)8月21日「献血の日」

全国7地区の主要駅で参加型壁面広告を掲載。献血に触れる広告を掲載。
(札幌駅、仙台駅、新宿駅、名古屋駅、大阪梅田駅、広島駅、西鉄福岡駅)



▲ピールオフ広告の様子(写真は大阪梅田駅)



▲学生ボランティアのメッセージ付きシール

(4)はたちの献血

安定的に献血血液を確保するため、「はたち」の若者を中心に、広く国民各層に献血について普及啓発し、理解と協力を呼びかける。

実施期間

令和8年1月1日(木)～ 令和8年2月28日(土)



▲はたちの献血ポスター

(6)大勢投手とのコラボ企画(大勢川崎病プロジェクト)
川崎病を患った経験のある読売巨人軍の大勢投手と、
読売巨人軍、日本川崎病研究センター、日本赤十字社が
協働し、川崎病患者の支援を行う活動を展開。

令和7年度活動内容

- ・川崎病啓発動画の作成
- ・大勢投手とコラボした献血記念品の配布
- ・宮崎キャンプでの献血実施・普及啓発
- ・東京ドームイベントへのブース出展



▲川崎病啓発動画



▲宮崎キャンプでの献血PR

(7)小学生・中学生への教育啓発

献血の啓発資材や動画などを活用し、普及啓発を行う。

- ・小学生用の普及動画、教育冊子を作成
- ・こども霞が関デーでの献血模擬体験の実施
- ・キッザニア甲子園にて、社会体験の一つとして献血に出会うチャンスの創出



▲キッザニア甲子園パビリオンの様子



▲小学生用の普及動画



▲小学生用の冊子



▲こども霞が関デーの様子

3 その他

(1) 献血Web会員サービス「ラブラッド」

令和8年1月5日に
献血カード・献血手帳はラブラッドアプリへ全面移行

	ラブラッド 会員数	予約率 (血小板成分献血)	予約率 (血漿成分献血)	予約率 (全血献血)
ラブラッド導入時 (平成30年10月)	約155万人	28.9%	21.4%	1.5%
令和6年度	約425万人	92.1%	89.6%	43.6%
令和7年度	約478万人	92.6%	90.6%	43.9%

スマホアプリが便利でおトク



日本赤十字社
ラブラッド

献血Web会員サービス ラブラッド

ラブラッドは日本赤十字社と献血者をつなぐWeb会員サービスです。

献血予約

Webサイト・アプリから献血予約が可能！当日予約（3時間前）※もできるので、お近くの献血会場を選択して、手軽に献血ができます。

※献血会場によっては当日予約できない場合があります。



事前問診回答

これまで献血会場でしかできなかった問診回答がWebサイト・アプリからできるようになりました。



血液検査の確認

ご自身の献血記録をいつでも確認することができます。



会員特典

ご協力いただいた献血種類に応じて、献血ポイントがたまります。また献血予約することで予約ポイントも付与されます。それはオリジナル記念品と交換が可能です。その他、イベントやキャンペーン情報のご案内や、便利な機能を多数備えています。



献血推進の施策について（厚生労働省の取組）

1. 普及啓発

（1）若年層に対する普及啓発

①中学生への普及啓発

献血への理解を促すことを目的としたポスターを全国の中学校に配布

※令和元年度より、学校における働き方改革の観点から、希望調査を実施

- ・令和5年度：10,616校に3.2万枚を配布
- ・令和6年度：10,890校に3.3万枚を配布
- ・令和7年度：10,636校に3.2万枚を配布

②高校生への普及啓発

ア 献血に関する副読本（けんけつ HOP STEP JUMP）を全国の高校に配布

※令和元年度より、学校における働き方改革の観点から、希望調査を実施

- ・令和5年度：4,958校に生徒用82万部、教員用5.0万部を配布
- ・令和6年度：5,032校に生徒用92万部、教員用5.0万部を配布
- ・令和7年度：4,361校に生徒用73万部、教員用4.4万部を配布

イ 高等学校等における献血に触れあう機会の受入れの推進

平成23年度から毎年度、文部科学省の協力を得て、高等学校等における献血に触れ合う機会の一環として、日本赤十字社が実施している学校献血や献血セミナーを積極的に受けいれてもらえるよう、高等学校等関係者に協力を依頼している。

③大学生等への普及啓発

平成30年度からの取組として、大学、短期大学、専門学校等に献血の啓発ポスターを配布

- ・令和5年度：5,186校に2.3万部を配布
- ・令和6年度：4,927校に2.3万部を配布
- ・令和7年度：4,850校に2.2万部を配布

④主に10代、20代の若年層を対象とした普及啓発

「はたちの献血」キャンペーン（毎年1～2月）の広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・令和5年度：4.0万枚を配布
- ・令和6年度：4.0万枚を配布
- ・令和7年度：3.9万枚を配布

⑤献血血液の確保対策事業（令和６年度開始）

- ア 中高生向け献血啓発動画（令和７年５月１６日公表）
- イ 献血普及啓発ボランティアによる活動発表会（令和８年２月１４日開催）
- ウ 中学生向け献血啓発テキスト「教えて！けんけつちゃん～中学生に知ってほしい、献血の
なし～」作成（令和７年１２月１５日配布）

（２）その他の普及啓発

①「愛の血液助け合い運動」（毎年７月）の実施

ア 広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・令和６年度：３．８万枚を配布
- ・令和７年度：３．８万枚を配布
- ・令和８年度：３．９万枚を配布

イ 献血運動推進全国大会の開催

- ・令和５年度：７月２６日 千葉県で開催
- ・令和６年度：７月１８日 岐阜県で開催
- ・令和７年度：７月１６日 宮城県で開催
- ・令和８年度：７月１０日 鳥取県で開催予定

②テレビ、ラジオ、新聞等を積極的に活用した普及啓発の実施

- ・令和４年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省
広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook
- ・令和５年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省
広報誌「厚生労働」、X（旧 Twitter）、Facebook
- ・令和６年度：政府広報オンライン、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、X（旧 Twitter）、
Facebook
- ・令和７年度：政府広報オンライン、ラジオ、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、X（旧 Twitter）、
Facebook

2. 若年層の献血者数の増加に向けた取組

将来にわたり安定的に血液を確保するため、平成29年度から、日本赤十字社及び都道府県と協力の上、献血者数が減少傾向にある10代から30代の年代別献血者数の目標値を設定し、若年層の献血者数の増加に向けた取組を実施している。

		10代	20代	30代
令和6年度	実績	212,373人	661,991人	707,258人
令和7年度	目標(計画)	261,520人	808,591人	906,742人
	実績	215,063人	651,483人	692,506人
対令和6年度実績比		101.3%	98.4%	97.9%
令和7年度達成率		82.2%	80.6%	76.4%

(参考) 延べ献血者数に占める割合

	10代	20代	30代	40代	50代・60代	延べ献血者数
昭和60年度	20.3%	30.3%	23.8%	16.2%	9.3%	8,763,037
平成元年度	18.0%	28.5%	22.6%	19.1%	11.8%	7,765,013
平成5年度	16.1%	30.5%	21.2%	19.0%	13.3%	7,138,298
平成10年度	11.0%	32.6%	22.8%	18.7%	15.0%	6,136,449
平成15年度	8.9%	26.1%	26.3%	19.4%	19.2%	5,606,457
平成20年度	5.9%	22.3%	27.3%	23.3%	21.2%	5,137,612
平成25年度	5.9%	18.3%	21.7%	28.1%	26.0%	5,156,325
平成30年度	5.6%	15.2%	17.1%	28.1%	34.0%	4,735,944
令和7年度	<u>4.3%</u>	<u>13.0%</u>	<u>13.8%</u>	<u>20.8%</u>	48.0%	<u>5,001,234</u>

端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

参考：普及啓発資材（厚生労働省作成）について

(1)①中学生を対象とした
献血への理解を促すポスター



(1)②ア 高校生向けテキスト
「けんけつ HOP STEP JUMP」



(1)②イ「学校における献血への理解増進に向けた取組について（依頼）」

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に配付された献血啓発資材の活用等、献血への理解増進に向けた取組をお願いします。

平 井 達 郎
令和5年6月10日

各都道府県・指定都市教育委員会学校保健担当
各都道府県私立学校協会
附属学校を置く各国立大学法人事務局
中小高等学校を数える学校数委員会事務局
社会福祉特別区協会（社会福祉）専門委員の協力を
受けた各地方公共団体の学校教育委員会事務局

文部科学省総合教育政策局健康教育・食育課

学校における献血への理解増進に向けた取組について（依頼）

近年、少子化の影響等により若年層（10代から30代）の献血者数の減少が懸念となっています。将来にわたって安定的に血液を確保するため、献血可能な年齢層の拡大も求め、若年層を対象とした献血の普及啓発が重要である。令和5年6月10日に閣議決定された「献血促進策と改革の基本方針（2025）」に、「小中学生から献血に対する理解を深める」ことが盛り込まれたところです。

この度、厚生労働省より、令和5年6月9日付け事務連絡で学校における献血推進策について周知等の協力依頼（別添1参照）がありましたので、この機会を捉え、各学校、小中学校、市町村、高等学校、特別支援学校等において、令和5年7月及び12月に施行された献血推進策を周知し、活用いただくとともに、都道府県赤十字献血センターが行う出張講座や学校献血等により、献血に馴染みやすい機会を積極的に受け入れるなど、献血への理解増進に向けて取り組んでいただきますようお願いいたします。特に学校献血については、別添1別紙の「学校献血について」を参照するなど、献血に馴染みやすい機会を作るといった取組の推進をお願いします。

また、文部科学省では、「現代の職業教育（社会教育）推進政策（案）」において、例えば、日本赤十字社の職員や医師、輸血を受けた患者等を対象として活用する際の経費の支援を行うこととしていますので、併せて御留意ください（別添2）。

このことについて、都道府県・指定都市教育委員会におかれては所管の学校及び市内の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校協会等におかれては所轄の学校法人等を通じてその設置する学校に対して、関係

(1)③大学生等を対象とした
献血啓発ポスター



(1)④「はたちの献血」
キャンペーンポスター



(1)⑤中学生向け献血啓発
テキスト作成



(2)①「愛の血液助け合い運動」
ポスター



令和 7 年度の献血実績と今後の方向性について

1. 令和 7 年度の実績と評価

- 令和 7 年度における実績として、延べ献血者数は、対前年度約 1.4 万人増加（0.3%増）の 500.1 万人、献血率は前年度と同様の 6.2%となった。課題である 10 代～30 代の若年層の献血者数については、令和 7 年度においては 対前年度約 2.3 万人減少（1.4%減）となった。（※ 1）
- 令和 7 年度も多くの方に御協力いただき、輸血用血液製剤及び原料血漿の安定供給に必要な血液量を確保することができた。（※ 2）
- 若年層の献血者数については、近年減少傾向にあったが、ホームページや Web 会員サービスを用いた献血の協力依頼に加え、アニメや SNS を活用した広報により、10 代を中心に下げ止まりつつある。今後も持続可能で有効と考えられる取組や働きかけを模索し続けることとする。

※ 1 令和 7 年度の年齢別献血率によると、前年度と比較して、10 代では微増、20 歳から 39 歳までの若年層及び 40 代までは若干の低下は見られるもののほぼ横ばいで推移。その後 50 代以降で緩やかに上昇する傾向は令和 6 年度と同様。

※ 2 輸血用血液製剤の供給本数は、対前年度で約 0.8%増加した。原料血漿の国内製造販売業者等への配分量（在庫取崩量を除く）は、前年度同様 120 万 L となった。

2. 令和9年度献血推進計画策定にあたっての方向性（案）

- 将来にわたって安定的に献血者を確保するためには、特に若年層に献血の必要性をご理解いただく必要がある。

昨年6月13日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2025」（以下、「骨太の方針2025」）（参考資料3）において、「小中学生から献血に対する理解を深めるとともに、輸血用血液製剤及びグロブリン製剤、フィブリノゲン製剤等血しょう分画製剤の国内自給、安定確保、適正使用を推進する。」と記載されている。令和8年7月1日現在で「経済財政運営と改革の基本方針2026」が閣議決定されていないため、現時点では骨太の方針2025に沿う内容で策定する必要があるのではないかと。

また、現在政府において策定が進められている成長戦略において、戦略17分野の一つに「創薬・先端医療」分野があり、そこに「感染症対応製品」が含まれている。「創薬・先端医療」分野の「主要な製品・技術等の官民投資ロードマップ素案」には献血血液を原料とする血漿分画製剤の「免疫グロブリン」が含まれている。「講じるべき政策パッケージ」には「献血の啓発や献血ルームの整備などの原料血漿確保体制の強化」が求められており、引き続き献血の推進が必要である。

- 献血者数の増加及び献血率の向上に向けて、戦略的に各種取組を推進する必要があるため、令和9年度献血推進計画の策定にあたっては、以下の項目を重点的に推進することとしてはどうか。
- ① 10代について、令和3年度以降は献血者数及び献血率が改善傾向にあることから、引き続き、学校献血や各種普及啓発の実施を通じて、初回献血者の確保を中心とした取組を行うとともに、個々の献血やラブラッドアプリによるWeb予約の

推進も並行して進める。また、「骨太の方針 2025」に記載されているように「献血に対する理解を深める」ため、献血可能年齢前の小中学生に対する普及啓発を引き続き実施する。

② 20 代・30 代については、近年において 18 歳、19 歳をピークに 30 代半ばにかけて減少する傾向が見られることから、仕事や家事、育児等で忙しい世代の方が少しでも献血する機会を確保できるよう、献血ルームや献血会場の環境整備や、ラブラッドアプリ等の利便性を高めるとともに、一度献血を経験された方が、継続して繰り返し献血に協力いただくための取組を引き続き検討する。

③ これまでの厚生労働科学研究により、「初回献血の年度にもう 1 回献血実施すると献血継続率が高い」ということが明らかになっているため、本研究結果を踏まえた取組を引き続き検討する。

「献血推進2025」の中間評価について

厚生労働省医薬局血液対策課

1. 概要

将来の血液製剤の安定供給体制を確保するため、令和3年度（2021年度）から当初は令和7年度（2025年度）まで、その後令和10年度（2028年度）まで（※）を目標期間とする新たな中期目標「献血推進2025」を設定し、献血の推進を図っていくこととしている。

今般、これまでの実績を確認して中期目標の中間評価を行い、必要に応じて中期目標を見直すこととする。

※ 「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（基本方針）」（令和6年3月29日厚生労働省告示第153号）の対象期間（2024年度から2028年度）と、献血の中期目標期間を合わせることにより、基本方針に基づき国、日本赤十字社、都道府県、市町村等が一体となって献血を推進することが出来るようにするため、「献血推進2025」の目標期間（2021年度から2025年度）を、2028年度まで延長した。

＜参考＞基本方針と中期目標の関係

血液法基本方針	2003～2008	2008～2013	2013～2019	<u>2019～2023</u>	<u>2024～2028</u>
献血推進の中期目標	2005～2009	2010～2014	2015～2020	<u>2021～2025</u>	<u>～2028（延長）</u>
	献血構造改革	献血推進2014	献血推進2020	<u>献血推進2025</u>	→ <u>献血推進2028</u>

2. 「献血推進2025」の令和7年度までの実績

項 目	目標の定義	令和7年度 目標値 (2025年度)	令和7年度 実績値 (2025年度)	令和6年度 実績値 (2024年度)	令和5年度 実績値 (2023年度)
若年層の献血者 数の増加	若年層(16歳～39歳)の人口に対する献血者数の割合(献血率)	6.7%	5.1%	5.2%	5.2%
	(参考)10代	6.6%	4.8%	4.7%	4.7%
	(参考)20代	6.8%	5.1%	5.2%	5.3%
	(参考)30代	6.6%	5.2%	5.2%	5.3%

安定的な献血の確保	献血推進活動に協力いただける企業・団体の数	70,000 社	69,313 社	67,152 社	65,939 社
複数回献血の推進	年に2回以上献血された方(複数回献血者)の人数	1,200,000 人	1,066,355 人	1,061,132 人	1,054,111 人
献血 Web サービスの利用の推進	献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録者の人数	5,000,000 人	4,789,272 人	4,193,293 人	3,759,780 人

- (1) 若年層(16歳～39歳)の人口に対する献血者数の割合(献血率)については、令和7年度は対前年度で0.1ポイント低下した。参考値の10代から30代の献血率については、10代の令和7年度実績は対前年度0.1ポイント増加したが20代は対前年度0.1ポイント低下した。将来にわたり安定的に血液を確保するためには、引き続き、若年層への働きかけを行っていく必要がある。
- (2) 献血推進活動に協力いただける企業・団体の数(献血サポーター)については、着実に数字を伸ばしてきたが、目標の70,000社にはわずかに届いていない。引き続き、各企業・団体に働きかけを行っていく必要がある。
- (3) 年に2回以上献血された方(複数回献血者数)については、毎年度人数は伸びているが目標の1,200,000人には届いていない。血液製剤の安定供給のために、引き続き、複数回献血者の確保に取り組んでいく必要がある。
- (4) 献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録者については、着実に登録者数を増やしているが、目標の5,000,000人には届いていない。引き続き、ラブラッドへの登録者を増やし、継続的な献血への協力を呼びかける必要がある。

3. 現状の把握と今後の方向性

(1) 現状

・献血推進2025の各目標値については、令和7年度(2025年度)終了時点において、横ばいまたは少し低下した項目や順調に数字を伸ばしている項目があるが、いずれも目標値には到達していない状況である。

・一方で、輸血用血液製剤及び血漿分画製剤メーカー向けの原料血漿を滞りなく供給するため

に必要な献血者数は確保できている。

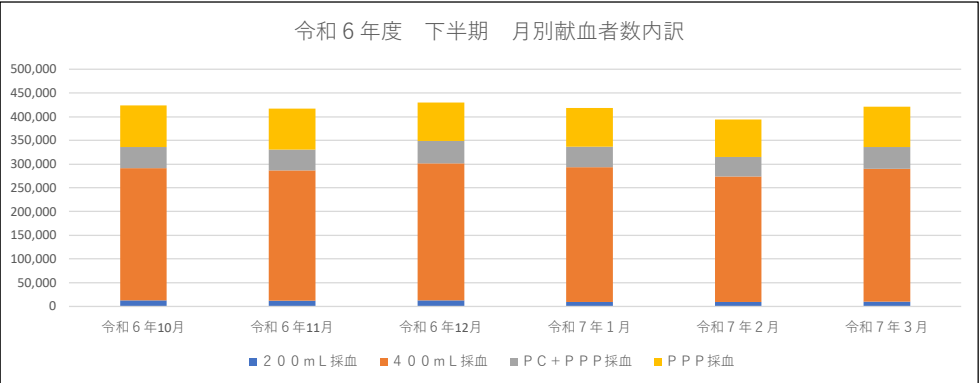
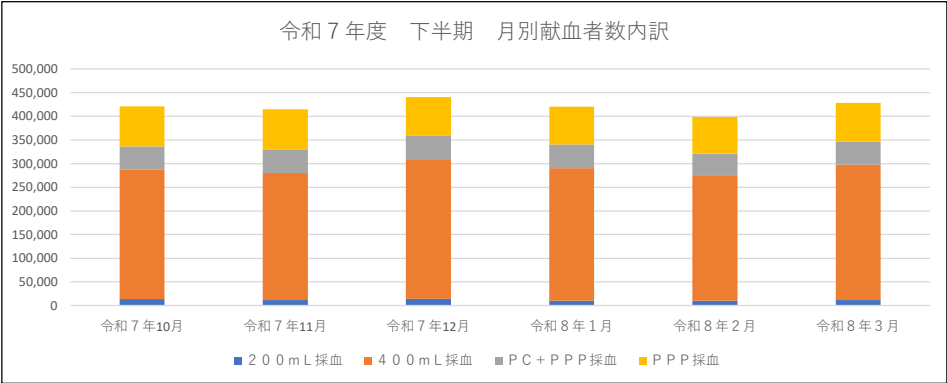
(2) 今後の方向性

・ 毎年度の各項目の達成状況を確認しつつ、昨年度から開始した献血普及啓発ボランティアによる活動発表会を引き続き実施するとともに、採血基準の緩和などを見直すほか、献血ルーム新設等の際にキッズスペースの設置や、医療現場で輸血を行っている医師と高校生の対話形式での献血セミナー動画を作成するなどして献血推進の取組を行い、目標達成に向けて努力したい。

・ また、今後の免疫グロブリン製剤の需要・供給動向の変化なども踏まえつつ、引き続き 中長期的な需要予測を継続して行い、必要に応じて中期目標を見直すことについても検討していきたい。

- 1. 原料血漿の確保状況
- 2. 採血状況

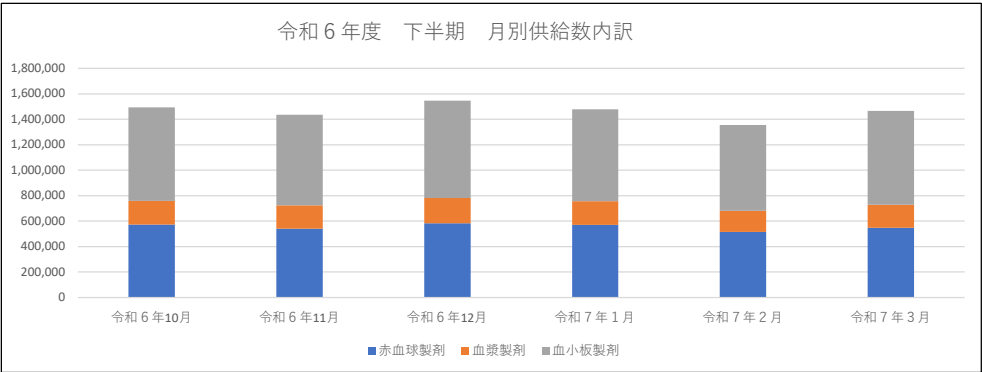
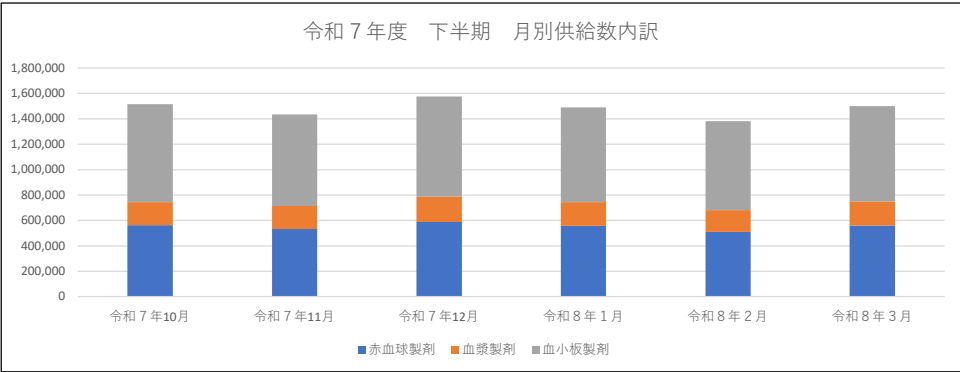
採血種別	10月			11月			12月			1月			2月			3月			下半期合計		
	令和7年10月	令和6年10月	差異	令和7年11月	令和6年11月	差異	令和7年12月	令和6年12月	差異	令和8年1月	令和7年1月	差異	令和8年2月	令和7年2月	差異	令和8年3月	令和7年3月	差異	令和7年度	令和6年度	差異
200mL採血	13,469	12,926	543	11,421	11,440	-19	14,237	12,620	1,617	10,319	9,070	1,249	9,939	9,405	534	11,477	10,236	1,241	70,862	65,697	5,165
400mL採血	273,694	278,313	-4,619	268,811	275,748	-6,937	295,069	289,466	5,603	279,707	284,055	-4,348	265,561	264,423	1,138	285,842	280,143	5,699	1,668,684	1,672,148	-3,464
PC+PPP採血	49,296	44,615	4,681	48,689	43,732	4,957	49,432	46,919	2,513	50,049	43,545	6,504	45,612	41,286	4,326	48,663	45,741	2,922	291,741	265,838	25,903
PPP採血	84,759	87,775	-3,016	85,604	86,660	-1,056	81,896	81,047	849	80,295	81,706	-1,411	77,304	79,207	-1,903	82,065	85,387	-3,322	491,923	501,782	-9,859
合計	421,218	423,629	-2,411	414,525	417,580	-3,055	440,634	430,052	10,582	420,370	418,376	1,994	398,416	394,321	4,095	428,047	421,507	6,540	2,523,210	2,505,465	17,745



3. 供給状況

(単位)

採血種別	10月			11月			12月			1月			2月			3月			下半期合計		
	令和7年10月	令和6年10月	差異	令和7年11月	令和6年11月	差異	令和7年12月	令和6年12月	差異	令和8年1月	令和7年1月	差異	令和8年2月	令和7年2月	差異	令和8年3月	令和7年3月	差異	令和7年度	令和6年度	差異
赤血球製剤	562,002	573,031	-11,029	532,497	539,296	-6,799	589,302	582,846	6,456	558,067	570,944	-12,877	509,333	514,651	-5,318	561,309	547,757	13,552	3,312,510	3,328,525	-16,015
血漿製剤	182,346	186,350	-4,004	180,056	184,924	-4,868	199,011	199,391	-380	186,382	187,340	-958	172,657	167,418	5,239	187,610	180,710	6,900	1,108,062	1,106,133	1,929
血小板製剤	769,390	734,127	35,263	720,910	711,475	9,435	786,655	764,465	22,190	744,835	720,015	24,820	698,950	673,385	25,565	751,495	736,047	15,448	4,472,235	4,339,514	132,721
合計	1,513,738	1,493,508	20,230	1,433,463	1,435,695	-2,232	1,574,968	1,546,702	28,266	1,489,284	1,478,299	10,985	1,380,940	1,355,454	25,486	1,500,414	1,464,514	35,900	8,892,807	8,774,172	118,635



4. 令和7年度下半期延べ献血者におけるラブラッド会員の割合（令和7年10月～令和8年3月）

※会員種別については、各期間内（下半期・月）に抽出している為、累計値と単月値は一致しない。

I. 令和7年度下半期 累計

会員区分	延べ献血者数		差異
	令和7年度下半期	令和6年度下半期	
ラブラッド会員	2,233,904	2,071,236	162,668
会員割合	88.5%	82.1%	
非会員	289,306	434,229	-144,923
非会員割合	11.5%	17.2%	
合計	2,523,210	2,505,465	17,745

II. 令和7年度下半期 月別

会員区分	延べ献血者数		差異	延べ献血者数		差異	延べ献血者数		差異	延べ献血者数		差異	延べ献血者数		差異	延べ献血者数		差異
	令和7年10月	令和6年10月		令和7年11月	令和6年11月		令和7年12月	令和6年12月		令和8年1月	令和7年1月		令和8年2月	令和7年2月		令和8年3月	令和7年3月	
ラブラッド会員	359,640	337,464	22,176	359,078	336,707	22,371	385,671	356,347	29,324	381,009	352,081	28,928	360,758	331,601	29,157	387,748	357,036	30,712
会員割合	85.4%	79.7%		86.6%	80.6%		87.5%	82.9%		90.6%	84.2%		90.5%	84.1%		90.6%	84.7%	
非会員	61,578	86,165	-24,587	55,447	80,873	-25,426	54,963	73,705	-18,742	39,361	66,295	-26,934	37,658	62,720	-25,062	40,299	64,471	-24,172
非会員割合	14.6%	20.3%		13.4%	19.4%		12.5%	17.1%		9.4%	15.8%		9.5%	15.9%		9.4%	15.3%	
合計	421,218	423,629	-2,411	414,525	417,580	-3,055	440,634	430,052	10,582	420,370	418,376	1,994	398,416	394,321	4,095	428,047	421,507	6,540

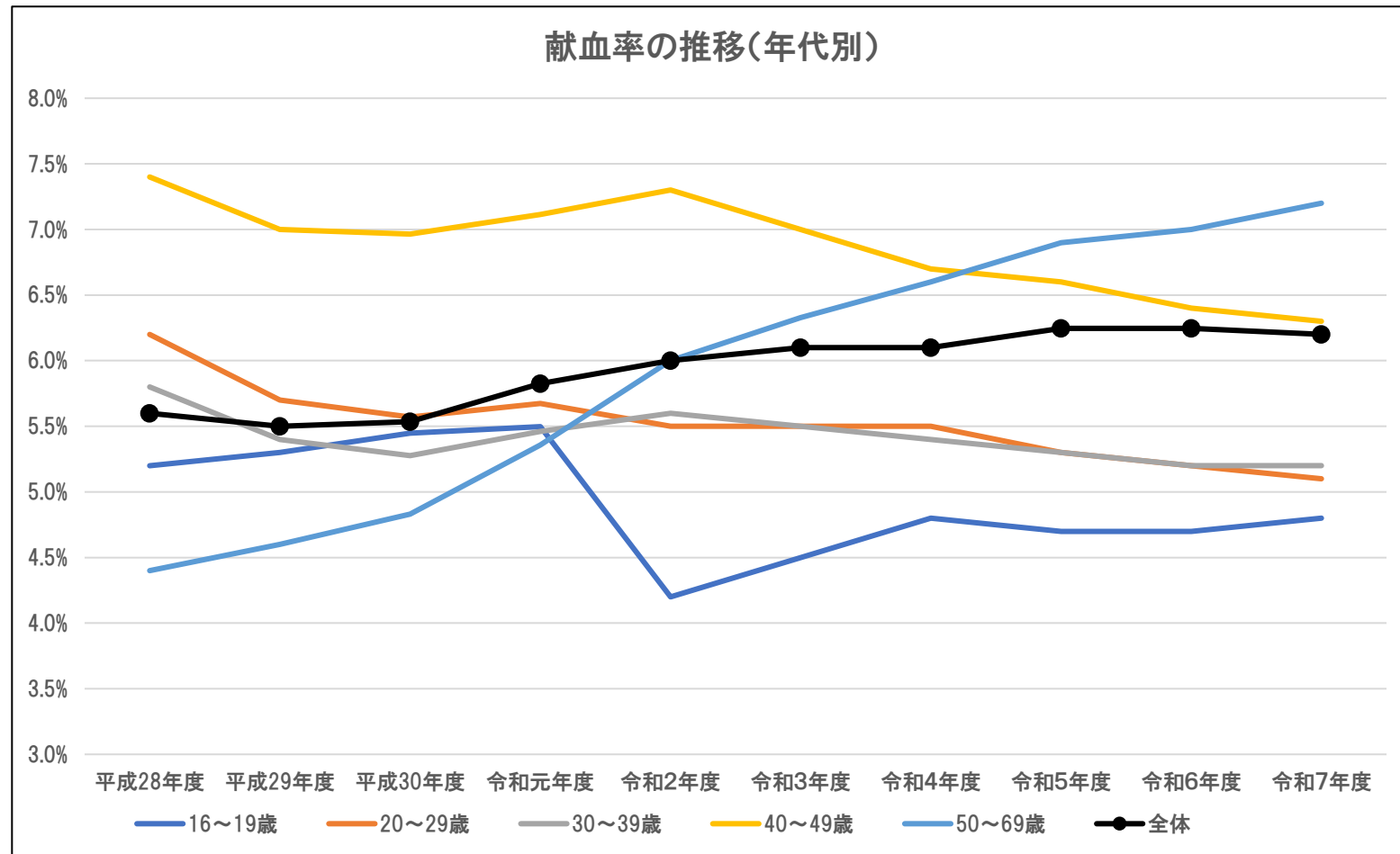
令和8年7月1日

日本赤十字社 血液事業本部

献血の現状

1 献血率の推移(年代別).....	1P
2 都道府県別・年代別献血者数及び献血率.....	2～4P
3 献血セミナー実施状況について.....	5P
4 高校生献血の現状について.....	6P
5 16～18歳初回献血者実績について.....	7P
6 職業別・採血種類別延べ献血者数(10～30代).....	8P

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならないこと。



令和7年度の献血率は全体で6.2%と、令和6年度と同じであった。

令和7年度 都道府県別・年代別献血者数及び献血率

※血液事業年度報(令和7年度)より抜粋

都道府県	10代			20代			30代			40代			50代			60代		
	献血者数		献血率	献血者数		献血率	献血者数		献血率	献血者数		献血率	献血者数		献血率	献血者数		献血率
	対前年度比			対前年度比			対前年度比			対前年度比			対前年度比			対前年度比		
北海道	13,081	105.2%	7.8%	33,759	100.7%	7.5%	52,082	96.1%	8.0%	52,082	96.1%	8.0%	74,709	104.0%	10.2%	39,493	103.0%	5.7%
北海道ブロック	12,411	96.1%	7.2%	33,759	100.7%	7.5%	33,875	99.5%	6.8%	52,082	96.1%	8.0%	74,709	104.0%	10.2%	39,493	103.0%	5.7%
青 森	2,257	92.2%	5.8%	5,270	92.0%	5.9%	6,227	93.8%	5.9%	9,756	93.3%	6.6%	13,119	97.6%	7.7%	6,152	104.5%	3.3%
岩 手	1,676	91.3%	4.2%	5,657	95.3%	6.2%	6,528	100.6%	6.1%	9,755	96.2%	6.7%	12,563	98.6%	7.9%	6,683	106.3%	3.9%
宮 城	4,866	104.8%	6.0%	12,473	98.3%	5.6%	12,993	97.6%	5.4%	19,608	98.8%	6.4%	25,621	102.1%	8.2%	11,462	107.5%	3.9%
秋 田	1,316	93.7%	4.6%	4,200	93.6%	6.8%	5,259	97.6%	7.0%	7,780	92.1%	7.0%	10,848	97.7%	8.9%	5,450	105.5%	3.7%
山 形	2,189	93.5%	6.1%	4,787	93.4%	5.9%	5,735	91.8%	6.1%	9,010	94.6%	7.1%	11,879	99.5%	8.9%	5,848	110.0%	3.9%
福 島	2,964	101.6%	4.6%	7,805	93.9%	5.1%	10,895	95.7%	6.2%	16,357	96.4%	7.3%	22,335	100.7%	9.3%	11,569	102.3%	4.4%
東北ブロック	15,268	97.9%	5.3%	40,192	95.1%	5.7%	47,637	96.3%	6.0%	72,266	95.9%	6.8%	96,365	99.9%	8.5%	47,164	105.7%	3.9%
茨 城	5,649	94.9%	5.4%	12,042	95.7%	4.3%	14,142	97.5%	4.7%	21,782	93.9%	5.8%	33,840	101.3%	8.1%	15,272	105.1%	4.2%
栃 木	7,916	97.4%	11.2%	12,075	100.3%	6.6%	13,194	96.8%	6.6%	20,495	95.2%	8.0%	28,006	101.6%	10.1%	11,612	108.6%	4.6%
群 馬	4,890	90.5%	6.8%	9,415	97.5%	5.0%	11,252	96.3%	5.8%	17,936	93.7%	7.3%	29,305	100.5%	10.4%	11,880	104.5%	5.0%
埼 玉	10,493	98.4%	3.9%	28,314	95.2%	3.6%	31,718	96.1%	3.8%	49,725	94.2%	4.9%	81,909	100.5%	7.1%	32,668	108.5%	4.0%
千 葉	10,619	100.1%	4.7%	31,115	98.3%	4.5%	32,409	97.8%	4.6%	48,660	95.4%	5.7%	78,823	100.9%	8.1%	31,351	109.2%	4.4%
東 京	26,067	103.8%	5.8%	98,623	98.3%	5.4%	93,703	99.3%	5.0%	118,460	96.6%	5.8%	172,919	101.1%	7.9%	64,927	112.4%	4.7%
神奈川	14,441	108.3%	4.4%	47,597	105.2%	4.6%	45,887	101.2%	4.4%	67,271	96.7%	5.3%	114,640	101.0%	7.6%	46,126	111.6%	4.6%
新 潟	3,824	106.7%	5.2%	10,652	96.5%	6.0%	11,898	95.9%	5.9%	19,253	96.1%	7.1%	28,161	102.2%	9.5%	13,770	110.7%	4.7%
山 梨	3,076	106.1%	10.3%	4,255	100.0%	5.5%	4,700	98.9%	6.0%	7,071	95.6%	7.3%	12,026	101.8%	10.2%	5,655	113.7%	5.3%
長 野	2,853	99.6%	3.8%	9,012	101.2%	5.0%	9,960	98.4%	5.2%	16,340	95.2%	6.5%	25,309	101.6%	8.7%	10,801	109.8%	4.2%
関東甲信越ブロック	89,828	101.4%	5.3%	263,100	99.1%	4.8%	268,863	98.5%	4.8%	386,993	95.7%	5.8%	604,938	101.1%	8.1%	244,062	110.1%	4.5%
富 山	2,195	94.8%	6.1%	5,541	94.6%	5.9%	5,374	92.8%	5.6%	8,205	93.3%	6.4%	12,211	100.6%	8.2%	4,531	115.0%	3.6%
石 川	2,269	99.2%	5.4%	6,007	95.3%	5.4%	5,908	98.9%	5.4%	9,437	91.7%	6.7%	14,634	99.8%	9.2%	5,691	106.1%	4.2%
福 井	1,138	110.8%	3.9%	3,348	101.7%	4.7%	3,771	99.8%	5.1%	5,632	93.8%	6.0%	8,664	100.8%	8.4%	4,585	101.4%	4.7%
岐 阜	2,994	89.5%	4.0%	6,842	96.6%	3.6%	8,011	96.3%	4.2%	13,306	90.9%	5.4%	21,765	99.9%	7.6%	10,485	109.7%	4.3%
静 岡	5,833	94.8%	4.4%	14,475	101.9%	4.3%	17,840	98.9%	4.9%	27,674	97.8%	6.0%	43,345	102.1%	8.2%	18,130	107.0%	4.0%
愛 知	12,786	97.4%	4.5%	41,622	95.6%	4.9%	39,754	97.1%	4.6%	57,580	92.9%	5.7%	90,264	98.9%	7.9%	37,433	111.1%	4.7%
三 重	1,665	98.5%	2.5%	6,632	96.9%	3.9%	8,711	95.4%	4.9%	13,408	92.4%	6.1%	22,041	100.1%	8.6%	8,903	111.0%	4.1%
東海北陸ブロック	28,685	97.7%	4.3%	84,467	97.0%	4.6%	89,369	97.2%	4.8%	135,242	93.6%	5.9%	212,924	100.0%	8.1%	89,758	109.4%	4.3%
滋 賀	2,218	98.2%	3.9%	5,809	94.8%	4.0%	7,000	95.5%	4.6%	11,456	95.5%	6.0%	17,387	100.9%	8.6%	7,915	110.6%	4.9%
京 都	3,925	111.3%	4.2%	15,257	101.4%	5.7%	13,507	95.2%	5.5%	21,409	96.3%	6.7%	34,475	99.4%	9.2%	17,189	105.3%	6.1%
大 阪	12,251	103.9%	3.9%	55,256	98.8%	5.4%	55,207	101.1%	5.6%	76,351	98.1%	6.7%	129,081	102.4%	9.4%	54,143	109.8%	5.8%
兵 庫	7,797	107.4%	3.8%	25,475	100.5%	4.8%	26,954	96.6%	4.9%	42,749	95.0%	6.1%	70,063	101.8%	8.5%	32,792	105.9%	5.1%
奈 良	1,670	106.3%	3.4%	5,586	101.1%	4.8%	6,184	95.6%	5.1%	9,666	99.0%	6.0%	15,974	100.8%	8.2%	8,237	105.1%	5.0%
和歌山	1,947	99.5%	6.2%	4,721	100.2%	6.1%	5,490	97.6%	6.6%	8,494	95.9%	7.9%	13,131	100.9%	10.0%	6,618	102.6%	5.4%
近畿ブロック	29,808	105.1%	4.0%	112,104	99.5%	5.2%	114,342	98.5%	5.4%	170,125	96.8%	6.5%	280,111	101.6%	9.0%	126,894	107.5%	5.5%
鳥 取	656	103.8%	3.3%	2,670	93.4%	6.0%	3,238	92.4%	6.4%	5,249	89.9%	7.7%	6,798	98.5%	9.7%	3,003	108.3%	4.0%
島 根	578	114.0%	2.5%	2,165	95.8%	4.1%	2,781	98.6%	4.7%	4,510	94.6%	5.8%	7,204	108.4%	8.8%	3,385	102.6%	3.9%
岡 山	2,828	90.7%	4.1%	9,148	91.8%	5.0%	9,464	97.3%	5.1%	16,280	95.0%	7.0%	24,164	101.7%	9.4%	10,507	105.6%	4.8%
広 島	3,813	94.2%	3.7%	14,027	96.9%	5.2%	15,306	97.1%	5.4%	24,024	92.5%	6.8%	39,592	99.7%	10.0%	16,333	108.1%	5.0%
山 口	1,460	98.2%	3.1%	4,968	95.2%	4.5%	6,142	97.2%	5.3%	9,898	89.6%	6.3%	15,652	99.4%	8.8%	7,549	103.2%	4.4%
徳 島	627	108.7%	2.6%	2,592	103.8%	4.4%	3,532	94.8%	5.4%	6,522	98.6%	7.4%	8,748	103.6%	9.1%	4,355	103.1%	4.4%
香 川	1,249	94.5%	3.6%	3,753	96.0%	4.3%	4,588	98.2%	5.0%	7,812	100.9%	6.4%	11,983	102.4%	9.1%	5,578	103.4%	4.7%
愛 媛	1,969	92.8%	4.2%	6,872	96.3%	6.3%	7,182	99.4%	5.9%	11,691	97.4%	7.2%	16,346	103.2%	9.0%	7,452	107.4%	4.3%
高 知	718	94.3%	3.1%	3,628	100.6%	7.0%	4,113	96.0%	7.1%	6,636	98.4%	8.1%	8,285	102.5%	9.0%	4,067	108.3%	4.4%
中四国ブロック	13,898	95.4%	3.6%	49,823	96.0%	5.2%	56,346	97.1%	5.5%	92,622	94.6%	6.9%	138,772	101.4%	9.4%	62,229	105.9%	4.6%
福 岡	10,823	104.4%	5.6%	28,283	96.2%	5.2%	30,170	95.6%	5.4%	47,139	95.7%	6.9%	67,964	100.9%	9.7%	30,416	106.3%	5.0%
佐 賀	972	112.1%	3.1%	3,320	100.0%	4.6%	4,879	99.3%	6.2%	8,037	100.2%	8.0%	11,025	107.3%	10.8%	5,381	105.7%	4.9%
長 崎	1,700	102.2%	3.6%	5,501	97.2%	5.3%	7,275	93.4%	6.2%	11,901	91.2%	7.8%	17,248	103.3%	10.1%	7,966	109.4%	4.2%
熊 本	3,723	113.0%	5.8%	8,892	103.4%	5.8%	10,293	97.2%	6.0%	16,770	95.7%	7.8%	22,118	99.3%	10.1%	11,875	108.9%	5.1%
大 分	1,163	94.2%	2.9%	4,716	96.5%	4.8%	6,223	95.5%	6.0%	11,136	96.5%	8.1%	15,787	101.8%	10.9%	7,382	109.4%	5.0%
宮 崎	1,494	125.3%	3.8%	4,356	100.0%	5.1%	5,429	99.5%	5.6%	9,086	100.7%	6.9%	12,442	104.5%	9.3%	6,734	103.4%	4.5%
鹿児島	2,077	114.0%	3.5%	6,602	100.2%	5.3%	8,499	97.8%	5.8%	13,680	95.9%	7.1%	18,181	101.0%	9.3%	9,474	103.3%	4.1%
沖 縄	2,348	94.9%	3.6%	6,368	101.5%	4.1%	9,306	100.9%	5.4%	14,028	98.2%	7.0%	17,245	107.6%	8.7%	5,410	109.6%	3.0%
九州ブロック	24,300	106.1%	4.5%	68,038	98.5%	5.1%	82,074	96.9%	5.7%	131,777	96.2%	7.3%	182,010	102.2%	9.8%	84,638	106.8%	4.6%
全 国	215,063	101.3%	4.8%	651,483	98.4%	5.1%	692,506	97.9%	5.2%	1,041,107	95.6%	6.3%	1,589,829	101.2%	8.6%	811,246	108.7%	5.5%

献血セミナー実施状況について(令和5年度から令和7年度)

令和5年度

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数	受講者数		前年比	実施回数	受講者数		前年比	実施回数	受講者数		前年比
		前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比	
小学生	82	105.1%	5,544	115.5%	62	248.0%	1,478	323.4%	144	139.8%	7,022	133.5%
中学生	92	108.2%	10,468	79.8%	42	221.1%	223	148.7%	134	128.8%	10,691	80.6%
高校生	916	155.0%	143,905	133.0%	84	115.1%	1,410	50.2%	1,000	150.6%	145,315	130.9%
専門学生	108	136.7%	7,892	116.2%	29	170.6%	691	297.8%	137	142.7%	8,583	122.2%
大学生	133	93.0%	9,647	118.0%	218	154.6%	1,953	138.3%	351	123.6%	11,600	121.0%
その他	443	129.2%	19,018	112.0%	169	352.1%	2,760	322.1%	612	156.5%	21,778	122.1%
合計	1,774	134.5%	196,474	124.3%	604	187.0%	8,515	143.9%	2,378	144.8%	204,989	125.0%

令和6年度

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数	受講者数		前年比	実施回数	受講者数		前年比	実施回数	受講者数		前年比
		前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比	
小学生	97	118.3%	6,451	116.4%	52	83.9%	1,681	113.7%	149	103.5%	8,132	115.8%
中学生	104	113.0%	12,940	123.6%	65	154.8%	1,581	709.0%	169	126.1%	14,521	135.8%
高校生	1037	113.2%	147,625	102.6%	81	96.4%	5,710	405.0%	1,118	111.8%	153,335	105.5%
専門学生	116	107.4%	9,007	114.1%	28	96.6%	723	104.6%	144	105.1%	9,730	113.4%
大学生	157	118.0%	10,971	113.7%	252	115.6%	2,386	122.2%	409	116.5%	13,357	115.1%
その他	435	98.2%	15,776	83.0%	216	127.8%	3,325	120.5%	651	106.4%	19,101	87.7%
合計	1,946	109.7%	202,770	103.2%	694	114.9%	15,406	180.9%	2,640	111.0%	218,176	106.4%

令和7年度

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数	受講者数		前年比	実施回数	受講者数		前年比	実施回数	受講者数		前年比
		前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比	
小学生	121	124.7%	5,600	86.8%	51	98.1%	1,697	101.0%	172	115.4%	7,297	89.7%
中学生	131	126.0%	10,560	81.6%	50	76.9%	476	30.1%	181	107.1%	11,036	76.0%
高校生	1203	116.0%	137,612	93.2%	80	98.8%	7,190	125.9%	1,283	114.8%	144,802	94.4%
専門学生	126	108.6%	9,045	100.4%	19	67.9%	543	75.1%	145	100.7%	9,588	98.5%
大学生	181	115.3%	12,032	109.7%	225	89.3%	2,648	111.0%	406	99.3%	14,680	109.9%
その他	567	130.3%	20,310	128.7%	108	50.0%	2,402	72.2%	675	103.7%	22,712	118.9%
合計	2,329	119.7%	195,159	96.2%	533	76.8%	14,956	97.1%	2,862	108.4%	210,115	96.3%

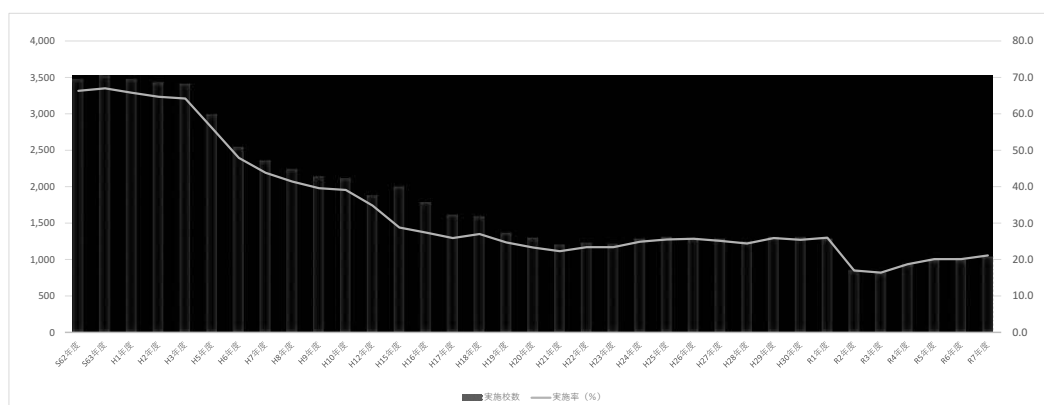
令和7年度における高校生献血の現状について

(表1) 高校生の献血場所別の献血者数 (単位:人)

	献血バス 出張採血	献血ルーム 血液センター	合計
令和元年度	66,877	54,391	121,268
令和2年度	55,414	50,127	105,541
令和3年度	54,863	48,156	103,019
令和4年度	53,212	48,101	101,313
令和5年度	53,574	46,260	99,834
令和6年度	54,170	49,812	103,982
令和7年度	53,578	49,570	103,148

(グラフ1) 高等学校での献血実施数と実施率の推移

献血実施校数



※令和7年度の高等学校設置数は全国で4,962校中、献血実施校数は1045校(前年度比105.2%)。
 ※厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告していたため、平成4年度、平成11年度、平成13年度、平成14年度は、調査未実施である。

(表2) 初回献血者の実績(単位:人)

	200mL献血			400mL献血			合計
	16歳男女	17歳女性	計	17歳男性	18歳男女	計	
平成30年度	20,425	10,297	30,722	15,837	18,735	34,572	65,294
令和元年度	19,787	10,128	29,915	15,213	18,366	33,579	63,494
令和2年度	17,748	8,978	26,726	12,041	14,804	26,845	53,571
令和3年度	17,378	9,549	26,927	11,804	13,912	25,716	52,643
令和4年度	17,835	9,044	26,879	11,652	13,764	25,416	52,295
令和5年度	17,406	9,097	26,503	12,700	14,195	26,895	53,398
令和6年度	18,149	9,689	27,838	12,686	14,470	27,156	54,994
令和7年度	17,911	9,362	27,273	12,528	13,802	26,330	53,603

※17歳男性の400mL献血は、平成23年度より採血基準変更での導入となる。

(表3) 献血セミナー参加者数

全体	参加人数	前年度比
令和元年度	221,873	88.2%
令和2年度	105,775	47.7%
令和3年度	125,089	118.3%
令和4年度	158,087	126.4%
令和5年度	196,474	124.3%
令和6年度	202,770	103.2%
令和7年度	195,159	96.2%

高校生	参加人数	前年度比
令和元年度	153,477	90.8%
令和2年度	82,853	54.0%
令和3年度	88,237	106.5%
令和4年度	108,228	122.7%
令和5年度	143,905	133.0%
令和6年度	147,625	102.6%
令和7年度	137,612	93.2%

16歳～18歳 初回献血者実績について

(表4)200mL初回献血者(単位:人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比
16歳男性	10,888	11,272	10,903	11,479	11,408	99.4%
初回	7,871	8,288	8,175	8,433	8,317	98.6%
初回割合	72.3%	73.5%	75.0%	73.5%	72.9%	
16歳女性	13,967	14,148	13,524	14,248	14,312	100.4%
初回	9,837	10,013	9,743	10,178	10,145	99.7%
初回割合	70.4%	70.8%	72.0%	71.4%	70.9%	
17歳男性	1,875	2,098	2,009	2,118	2,044	96.5%
初回	1,234	1,330	1,306	1,429	1,357	95.0%
初回割合	65.8%	63.4%	65.0%	67.5%	66.4%	
17歳女性	19,382	18,256	17,930	19,046	18,963	99.6%
初回	9,682	9,161	9,255	9,830	9,511	96.8%
初回割合	50.0%	50.2%	51.6%	51.6%	50.2%	
18歳男性	1,172	1,350	1,416	1,543	1,581	102.5%
初回	861	994	1,013	1,131	1,152	101.9%
初回割合	73.5%	73.6%	71.5%	73.3%	72.9%	
18歳女性	8,876	9,396	8,898	9,319	9,697	104.1%
初回	4,887	5,328	5,078	5,371	5,460	101.7%
初回割合	55.1%	56.7%	57.1%	57.6%	56.3%	

(表5)400mL初回献血者(単位:人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比
17歳男性	19,354	19,091	19,769	20,292	20,285	100.0%
初回	12,042	11,986	13,057	12,996	12,914	99.4%
初回割合	62.2%	62.8%	66.0%	64.0%	63.7%	
18歳男性	35,277	38,370	37,922	38,490	38,720	100.6%
初回	20,759	23,557	23,598	23,627	23,634	100.0%
初回割合	58.8%	61.4%	62.2%	61.4%	61.0%	
18歳女性	18,058	19,253	19,573	20,004	20,460	102.3%
初回	9,868	10,679	11,246	11,493	11,828	102.9%
初回割合	54.6%	55.5%	57.5%	57.5%	57.8%	

職業別・採血種類別延べ献血者数(10～30代)

(表6)10代 職業別・採血種類別延べ献血者数(単位:人)

高校生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	64,861	54,003	49,483	53,644	57,882	57,757	51,775	51,632	50,886	49,070	52,064	51,832
400mL	53,449	53,641	54,152	56,258	57,704	56,926	47,954	46,244	45,245	45,771	47,289	46,426
PPP	2,298	2,444	3,153	2,740	3,198	4,104	3,810	3,005	2,887	2,677	2,464	883
PC+PPP	2,311	1,750	1,491	1,257	1,161	948	691	688	743	782	731	2,608
合計	122,919	111,838	108,279	113,899	119,945	119,735	104,230	101,569	99,761	98,300	102,548	101,749

大学生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	10,363	7,586	6,623	7,393	9,046	8,887	4,786	6,771	8,135	8,310	8,110	9,144
400mL	60,499	59,190	60,875	61,771	63,476	62,567	34,213	44,484	54,194	54,719	55,169	57,047
PPP	5,431	6,035	7,428	6,166	6,965	8,931	9,250	8,795	7,737	6,705	6,239	2,657
PC+PPP	5,724	4,700	3,734	3,252	2,908	3,281	2,496	2,506	2,478	2,191	2,192	6,456
合計	82,017	77,511	78,660	78,582	82,395	83,666	50,745	62,556	72,544	71,925	71,710	75,304

その他学生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	5,433	3,631	3,095	3,479	3,730	3,702	2,576	2,939	2,877	2,632	2,482	2,516
400mL	28,980	28,048	27,062	26,753	25,463	23,960	16,260	17,839	18,408	17,117	15,420	14,795
PPP	2,379	2,506	2,902	2,587	2,957	3,189	2,778	2,437	2,320	1,763	1,589	505
PC+PPP	2,275	1,859	1,568	1,277	996	1,131	720	680	614	522	431	1,498
合計	39,067	36,044	34,627	34,096	33,146	31,982	22,334	23,895	24,219	22,034	19,922	19,314

その他	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	3,366	2,420	2,181	2,240	2,494	2,390	2,232	1,674	1,787	1,767	1,656	1,813
400mL	26,530	27,376	26,647	26,729	25,816	25,393	21,614	19,059	17,117	15,792	14,938	15,331
PPP	1,217	1,250	1,775	1,466	1,468	1,818	1,673	1,385	1,235	1,126	1,149	541
PC+PPP	1,697	1,368	1,224	946	857	814	639	446	439	378	450	1,011
合計	32,810	32,414	31,827	31,381	30,635	30,415	26,158	22,564	20,578	19,063	18,193	18,696

合計	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	84,023	67,640	61,382	66,756	73,152	72,736	61,369	63,016	63,685	61,779	64,312	65,305
400mL	169,458	168,255	168,736	171,511	172,459	168,846	120,041	127,626	134,964	133,399	132,816	133,599
PPP	11,325	12,235	15,258	12,959	14,588	18,042	17,511	15,622	14,179	12,271	11,441	4,586
PC+PPP	12,007	9,677	8,017	6,732	5,922	6,174	4,546	4,320	4,274	3,873	3,804	11,573
合計	276,813	257,807	253,393	257,958	266,121	265,798	203,467	210,584	217,102	211,322	212,373	215,063

(表7)20代 職業別・採血種別延べ献血者数(単位:人)

公務員	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	4,583	3,023	2,268	1,951	1,843	2,015	2,174	2,250	2,271	2,365	2,366	2,588
400mL	77,964	78,825	79,136	80,101	77,829	77,760	84,664	81,120	77,679	74,649	74,235	72,463
PPP	8,003	8,819	10,469	9,444	10,147	12,016	13,488	12,826	12,175	11,380	11,321	5,462
PC+PPP	12,356	10,021	8,751	7,495	6,267	5,926	5,181	5,126	5,111	5,109	5,094	10,685
合計	102,906	100,688	100,624	98,991	96,086	97,717	105,507	101,322	97,236	93,503	93,016	91,198

会社員	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	28,339	18,550	13,631	12,004	11,179	10,815	10,569	10,582	10,027	10,959	10,446	11,541
400mL	296,385	292,842	285,824	276,394	267,217	265,022	255,211	254,975	249,740	247,994	246,446	244,915
PPP	46,858	49,938	58,066	51,223	55,029	64,375	72,327	66,454	60,913	57,127	54,871	27,858
PC+PPP	60,114	50,265	41,137	35,398	30,432	28,806	26,426	25,914	25,661	25,278	24,690	51,631
合計	431,696	411,595	398,658	375,019	363,857	369,018	364,533	357,925	346,341	341,358	336,453	335,945

高校生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	151	102	78	100	91	98	73	90	110	127	99	119
400mL	1,142	1,006	1,017	1,115	1,155	1,166	980	1,098	1,193	1,188	1,115	1,084
PPP	63	49	68	74	90	91	83	100	83	66	76	26
PC+PPP	56	53	46	21	28	33	19	17	21	26	18	44
合計	1,412	1,210	1,209	1,310	1,364	1,388	1,155	1,305	1,407	1,407	1,308	1,273

大学生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	12,531	9,019	7,143	7,497	8,162	8,484	5,981	8,003	9,249	9,238	9,085	9,439
400mL	110,079	105,144	102,997	103,822	103,629	105,435	83,335	98,509	107,569	104,923	103,642	99,625
PPP	18,282	18,960	22,009	19,166	20,558	25,686	29,443	29,733	26,391	22,489	20,841	10,409
PC+PPP	24,228	19,558	15,765	13,550	12,174	11,884	11,298	11,703	11,206	10,191	9,783	19,415
合計	165,120	152,681	147,914	144,035	144,523	151,489	130,057	147,948	154,415	146,841	143,351	138,888

その他学生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	4,019	2,739	2,042	2,093	2,179	2,140	1,775	1,777	1,877	1,865	1,766	1,690
400mL	31,356	29,925	28,574	27,521	26,385	25,769	21,603	22,055	22,279	21,332	20,871	19,180
PPP	4,738	4,531	5,019	4,348	4,634	5,435	5,385	4,917	4,574	4,045	3,666	1,578
PC+PPP	5,761	4,237	3,227	2,621	2,353	2,091	1,798	1,716	1,632	1,580	1,509	3,035
合計	45,874	41,432	38,862	36,583	35,551	35,435	30,561	30,465	30,362	28,822	27,812	25,483

主婦	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	1,604	930	593	437	434	383	331	307	249	229	180	198
400mL	4,683	4,423	3,874	3,495	3,251	3,056	2,937	2,796	2,505	2,149	1,923	1,572
PPP	1,485	1,360	1,489	1,086	960	1,050	854	702	688	576	456	124
PC+PPP	900	693	508	390	327	257	167	132	152	147	133	393
合計	8,672	7,406	6,464	5,408	4,972	4,746	4,289	3,937	3,594	3,101	2,692	2,287

自営業	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	246	178	93	84	94	106	137	119	136	150	110	162
400mL	4,791	4,676	4,511	4,111	3,788	3,785	4,168	4,272	4,098	4,033	3,914	3,884
PPP	630	752	914	717	713	944	994	967	841	854	824	435
PC+PPP	1,095	939	705	552	492	505	474	443	444	418	424	779
合計	6,762	6,545	6,223	5,464	5,087	5,340	5,773	5,801	5,519	5,455	5,272	5,260

その他	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	7,141	4,117	2,769	2,445	2,140	2,050	2,048	1,974	1,818	2,003	1,823	2,037
400mL	56,656	54,196	49,705	46,278	42,338	40,253	40,244	39,234	37,809	35,885	34,988	33,862
PPP	14,432	14,746	16,142	13,361	13,332	14,580	15,115	13,439	11,974	10,979	10,433	5,497
PC+PPP	19,990	16,080	12,756	10,043	8,323	7,285	5,910	5,744	5,420	4,970	4,843	9,753
合計	98,219	89,139	81,372	72,127	66,133	64,168	63,317	60,391	57,021	53,837	52,087	51,149

合計	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	58,614	38,658	28,617	26,611	26,122	26,091	23,088	25,102	25,737	26,936	25,875	27,774
400mL	583,056	571,037	555,638	542,837	525,592	522,246	493,142	504,059	502,872	492,153	487,134	476,585
PPP	94,491	99,155	114,176	99,419	105,463	124,177	137,689	129,138	117,639	107,516	102,488	51,389
PC+PPP	124,500	101,846	82,895	70,070	60,396	56,787	51,273	50,795	49,647	47,719	46,494	95,735
合計	860,661	810,696	781,326	738,937	717,573	729,301	705,192	709,094	695,895	674,324	661,991	651,483

(表8)30代 職業別・採血種別延べ献血者数(単位:人)

公務員	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	3,671	2,088	1,321	1,082	854	921	1,065	1,004	970	977	900	1,125
400mL	103,795	99,752	96,626	96,902	96,520	98,656	106,098	103,556	99,060	99,381	98,740	96,081
PPP	11,220	11,996	14,230	12,916	14,484	18,239	20,683	19,385	17,844	17,106	16,338	10,755
PC+PPP	24,486	20,240	17,243	15,923	14,239	13,410	12,149	11,890	11,306	10,757	10,061	14,555
合計	143,172	134,076	129,420	126,823	126,097	131,226	139,995	135,835	129,180	128,221	126,039	122,516

会社員	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	25,297	15,910	10,927	8,785	7,112	6,699	5,758	5,426	5,036	5,395	5,053	5,705
400mL	455,685	433,393	413,119	397,503	380,819	373,012	359,708	352,191	345,727	343,148	335,952	331,211
PPP	67,148	72,196	84,908	76,528	83,322	98,821	114,696	105,291	94,109	87,421	82,677	54,205
PC+PPP	123,640	103,650	88,716	78,437	67,938	64,598	60,374	58,220	55,094	51,903	49,997	76,201
合計	671,770	625,149	597,670	561,253	539,191	543,130	540,536	521,128	499,966	487,867	473,679	467,322

高校生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	6	6	7	3	4	6	2	3	1	1	2	3
400mL	115	115	82	104	113	99	105	85	80	85	83	68
PPP	2	2	1	1	7	8	1	2	3	3	0	
PC+PPP	2	5	2	3	2	1	2	8	3	0	0	1
合計	125	128	92	111	126	114	110	98	87	89	85	72

大学生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	51	22	18	23	22	24	17	23	18	32	25	26
400mL	842	887	904	920	860	892	779	806	824	760	828	837
PPP	243	235	261	199	227	249	281	337	302	203	216	117
PC+PPP	398	352	282	255	208	207	194	161	123	146	107	199
合計	1,534	1,496	1,465	1,397	1,317	1,372	1,271	1,327	1,267	1,141	1,176	1,179

その他学生	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	356	241	166	169	144	116	95	86	89	93	88	85
400mL	3,020	2,762	2,658	2,514	2,331	2,168	1,735	1,607	1,540	1,501	1,504	1,388
PPP	584	527	599	505	506	563	458	384	340	387	399	193
PC+PPP	825	620	515	338	360	352	202	164	184	173	169	334
合計	4,785	4,150	3,938	3,526	3,341	3,199	2,490	2,241	2,153	2,154	2,160	2,000

主婦	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	6,808	3,785	2,277	1,713	1,287	1,183	1,159	995	761	734	573	621
400mL	26,282	23,468	21,017	19,548	17,778	16,923	17,463	16,506	14,866	13,162	12,293	10,932
PPP	8,405	7,806	8,696	7,288	7,529	8,248	8,406	7,013	6,087	4,802	3,923	1,454
PC+PPP	7,269	5,756	4,510	3,677	2,900	2,538	1,930	1,894	1,816	1,827	1,632	3,547
合計	48,764	40,815	36,500	32,226	29,494	28,892	28,958	26,408	23,530	20,525	18,421	16,554

自営業	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	561	310	209	190	155	132	175	171	133	204	150	187
400mL	19,293	17,821	16,388	15,117	14,045	13,486	14,810	13,854	12,980	12,572	11,593	11,420
PPP	2,118	2,285	2,794	2,387	2,686	3,202	3,977	3,532	3,134	2,983	2,815	1,947
PC+PPP	5,224	4,127	3,487	2,960	2,640	2,444	2,146	2,163	2,044	2,067	1,952	2,493
合計	27,196	24,543	22,878	20,654	19,526	19,264	21,108	19,720	18,291	17,826	16,510	16,047

その他	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	6,601	3,727	2,341	1,737	1,336	1,200	1,206	1,060	875	978	811	984
400mL	62,112	59,182	55,460	53,373	49,999	49,162	50,302	47,520	45,513	43,424	41,625	40,208
PPP	19,102	19,809	23,205	20,602	21,992	26,036	28,028	24,530	20,601	18,225	16,788	10,304
PC+PPP	31,938	27,067	23,077	20,167	17,703	16,115	13,839	12,723	11,568	10,686	9,964	15,320
合計	119,753	109,785	104,083	95,879	91,030	92,513	93,375	85,833	78,557	73,313	69,188	66,816

合計	平成26年度 2014	平成27年度 2015	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025
200mL	43,351	26,089	17,266	13,702	10,914	10,281	9,477	8,768	7,883	8,414	7,602	8,736
400mL	671,144	637,380	606,254	585,981	562,465	554,398	551,000	536,125	520,590	514,033	502,618	492,145
PPP	108,822	114,856	134,694	120,426	130,753	155,366	176,530	160,474	142,420	131,130	123,156	78,975
PC+PPP	193,782	161,817	137,832	121,760	105,990	99,665	90,836	87,223	82,138	77,559	73,882	112,650
合計	1,017,099	940,142	896,046	841,869	810,122	819,710	827,843	792,590	753,031	731,136	707,258	692,506

「献血普及啓発ボランティア活動発表会」作品募集要項

1. 募集の目的

小中高校生による献血に関する研究やボランティア活動の成果を発表することで、若年層の意識を高め、社会への積極的な参加を促すことを目的としています。

現状は献血ピーク世代である40代～50代を中心に必要な血液量は確保できているものの、将来、これらの世代が献血可能年齢（69歳まで）から外れることを考えると、今後も安定的に血液を確保するためには、早い段階からの普及啓発を行い、将来の献血を支える世代となっていいただくことが不可欠です。

皆さまが考える、若年層に献血の意義が伝わり、若年層の献血への関心を高める広報となるような作品を募集します。

2. 対象者

日本国内の小学生・中学生・高校生（個人・グループいずれも可）

3. 募集部門と内容

【活動報告部門】

テーマ：「献血の大切さを知ろう！」献血の大切さを学び、仲間に知らせよう。
若年層に献血の意義が伝わり、献血への関心を高める報告（例：献血をテーマにした自由研究やボランティア活動、学校・地域での啓発活動の報告など）を募集します。

・形式：レポート（A4サイズ 2～5枚、PDF可）

・応募に関する注意事項

（1）紙媒体で応募の場合

A4サイズを使用し、作品は折らずに郵送してください。

（2）データで応募の場合

応募フォームでの応募又はEメールに添付の場合は、Wordデータ、もしくはPDFデータでお送りください。（サイズは1GBまででお願いいたします）

応募フォームでの応募又はEメールに添付できないサイズの場合は、Wordデータ、もしくはPDFデータでCD/DVDに記録の上、郵送してください。

【動画部門】

テーマ：「献血に行ってみた」「献血啓発をやってみた」など、実際に体験した献血ボランティア活動や献血啓発活動など動画を募集します。

・形式：動画（MP4、MOV形式など）

※ショートでも可。長さ問わず。

・応募に関する注意事項

応募フォームでの応募又はEメールに添付の場合は、MP4、もしくはMOV形式等でお送りください。(サイズは1GBまででお願いいたします)

応募フォームでの応募又はEメールに添付できないサイズの場合は、MP4、もしくはMOV形式等でCD/DVDに記録の上、郵送してください。

4. 募集期間

令和7年7月28日(月) ～ 9月30日(火)

※郵送応募による当日消印有効

5. 応募方法

(1) 応募方法

- ・応募フォーム (<https://forms.gle/VibBYw1A2Vy1fGSW7>)
- ・郵送による提出(下記、審査事務局(株)ウルフスタイル)まで郵送ください。)
- ・メールによる提出(下記、審査事務局(株)ウルフスタイル)までメール送付ください。)

(2) 必要事項

①郵便番号

②住所

③氏名(ふりがな)

④学校名(ふりがな)、学年

⑤連絡先(電話番号・メールアドレス)

※メールアドレスがない方は電話番号のみ記入をお願いします。

⑥ニックネーム(公表時に使用希望の場合)

⑦献血普及啓発ボランティアによる活動発表会を知ったきっかけ

※郵送、またはメールにて提出する際は、上記もあわせてお知らせください。

6. 表彰

各部門につき、厚生労働大臣賞(副賞として図書カード5,000円分)を2件ずつ授与し、さらに、相当数の優秀賞(副賞として図書カード1,000円分)を授与する予定です

なお、受賞作品は以下へ掲載予定です。

- ・厚生労働省および日本赤十字社のホームページやSNS
- ・各種献血啓発資材

7.審査

特設サイトでの一般投票及び厚生労働省が設置する審査委員会での審査を経て、結果を発表します。厚生労働大臣賞・優秀賞について、受賞者にご連絡するとともに、厚生労働省ホームページ等で発表します。

8.発表会

厚生労働大臣賞受賞者の皆様には令和8年1月～2月に開催予定の献血普及啓発ボランティアによる活動発表会（オンライン）へのご出席を依頼させていただく予定です。

9. 応募上の注意

1. オリジナル作品であること

他者の著作物や発言を引用する場合は、適切に出典を明示してください。

2. 著作権について

応募作品の著作権は応募者に帰属します。ただし、入賞作品の発表や応募作品を活用した広報に関する使用権は、厚生労働省及び日本赤十字社、その他厚生労働省が使用許諾した者に帰属するものとし、使用料は発生しないものとします。

3. 肖像権等の注意

動画等に他者が映っている場合は、必ず本人または保護者の同意を得てください。

4. 個人情報の取扱い

取得した情報は、審査・通知・表彰等、事業運営に必要な範囲でのみ利用します。

5. 作品の返却

応募作品は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

6. ご応募に関する必要記載事項に不備が有る場合は、審査対象としない場合があります。

7. テレビ・新聞・ラジオ・ウェブサイト・ポスターなどのメディアを通じて応募作品を紹介する場合があります。

8. 応募の詳細については、「献血普及啓発ボランティアによる活動発表会 募集規約」をご覧ください。

9.その他

応募状況・審査内容に関する問い合わせには応じられません。

その他お問合せについては、審査事務局までご連絡ください。

規約に違反した場合、受賞を取り消すことがあります。

【主催】

厚生労働省・日本赤十字社

【審査事務局】

(株)ウルフスタイル内：担当 山口

〒104-0045 東京都中央区築地 2-7-12 山京ビル 708

[TEL] 03-6264-0577 [MAIL] contest@wolfstyle.co.jp

令和8年2月6日（金）

照会先

医薬局血液対策課

課長補佐：金子 健太郎（内線2909）

献血推進係：村本 紗央理（内線2908）

（代表電話）03(5253)1111

（直通電話）03(3595)2395

報道関係者 各位

「献血普及啓発ボランティア活動発表会」の 受賞作品を決定しました

令和8年2月14日（土）に若年層への意識啓発と社会への積極的な参加を促すことを目的とした、「献血普及啓発ボランティアによる活動発表会」を開催します。

開催にあたり、若年層に献血の意義が伝わり、若年層の献血への関心を高める広報となるような作品を募集し、活動報告部門、動画部門の2部門に合計50件の応募がありました。

厳正なる審査を行い、厚生労働大臣賞等を決定いたしましたのでお知らせします。

※募集要項等は[こちら](#)

献血普及啓発ボランティアによる活動発表会

1. 日時：令和8年2月14日（土）13時～14時
2. 場所：オンライン
3. URL：<https://www.youtube.com/watch?v=snvW4eRrLAQ>

※本発表会の著作権は厚生労働省に帰属します。なお、配信している動画あるいは内容を許可なく他のウェブサイトや著作物等へ掲載することを禁止します。また、著作権法で許された範囲を超えた複製を固く禁止します。著作権法で許された範囲内で複製する場合でも、その副生物を目的外利用したり、内容を改変したりすることを禁止します。

活動報告部門

■厚生労働大臣賞

- ・おかやま山陽高等学校 ユネスコ部JRC班様

作品： [全国の高校で卒業記念献血の実現に向けて \[2.2MB\]](#) 

- ・香川県立三本松高等学校 香川県高校生献血ボランティアネットワーク様

作品： [「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」の活動報告 \[1.6MB\]](#) 

■優秀賞

- ・駒込高校 鈴木結花様/荒井朋様
- ・栃木県立大田原高等学校 室井玲音様
- ・ぐんま国際アカデミー高等部 橋場梨奈様/堀菜々華様
- ・もりどろだんご様
- ・越谷市立大沢北小学校 小山優様
- ・秀岳館高等学校 岩本知己様/若松雅翔様/田邊聖龍様/樋口琥珀様

■奨励賞

- ・兵庫県立宝塚北高等学校 山口文香様
- ・福岡県立新宮高等学校 平本彩紗様
- ・奈良県立青翔中学校 荒木奏颯様
- ・岩手県立盛岡第一高等学校 田代こはる様/千葉美晴様
- ・作新学院高等学校 鶴牧昇汰様
- ・日高高校JRC部様

■特別賞（けんけつちゃん賞）

- ・横浜市立東市ヶ尾小学校 永田澤菜様

動画部門

■厚生労働大臣賞

- ・福岡県立新宮高等学校 園田結様

作品：[献血について詳しく知ろう！](#)（厚生労働省YouTubeチャンネル）

- ・川崎市立川崎高等学校 まきまきゼミ様

作品：[献血〇×クイズ始まるよ～!!](#)（厚生労働省YouTubeチャンネル）

■優秀賞

- ・愛知県立高蔵寺高等学校 能田さやか様
- ・宮城県仙台第三高等学校 井上陽菜様/今松景様
- ・三北アボちゃんサポーター様
- ・La Pietra - Hawai'i School for Girls 土本恵依様
- ・ハイブラ様

経済財政運営と改革の基本方針 2025

～「今日より明日はよくなる」と実感できる社会へ～

(令和7年6月13日閣議決定)

※血液関係部分抜粋、一部加工

第3章 中長期的に持続可能な経済社会の実現

2. 主要分野ごとの重要課題と取組方針

(1) 全世代型社会保障の構築

(中略)

(創薬力の強化とイノベーションの推進)

(中略)

小中学生から献血に対する理解を深めるとともに、輸血用血液製剤及びグロブリン製剤、フィブリノゲン製剤等血しょう分画製剤の国内自給、安定確保、適正使用を推進する。

(後略)

献血推進に係る新たな中期目標「献血推進 2025」

1. 背景及び目的

病気やけがの治療等に必要な血液は、国民の善意による献血によって支えられている。献血者は昭和 60 年度に延べ約 876 万人を数えたが、その後減少を続け、平成 30 年度には約 474 万人まで低下した。

国は、平成 17 年度から「献血構造改革」、平成 22 年度から「献血推進 2014」、平成 27 年から「献血推進 2020」といった中期的な献血推進目標を策定して献血者確保のための取り組みを行ってきた。

令和元年度の献血者数は、約 493 万人と増加に転じたが、20 代、30 代の献血率の減少が続いている。令和元年 10 月に行った日本赤十字社の血液需給将来推計シミュレーションでは、都道府県ごとに地域特性を踏まえ、医療法に基づく医療計画（地域医療構想）による医療ニーズの変化、人口推移を考慮した需要推計を実施したところ、令和 4 年度には約 514 万人、令和 9 年度には約 507 万人の献血者が必要になると試算された。

こうした状況を踏まえ、将来の血液の安定供給体制を確保するため、新たに令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間の取組の達成目標を設定し、献血の推進を図っていくこととする。

なお、達成目標は、日本赤十字社において令和元年 10 月の血液需給将来推計シミュレーションを基に行った新たなシミュレーションや、厚生労働科学研究「新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究（主任研究者：田中純子広島大学大学院教授）」の研究結果、及び献血推進調査会の意見を踏まえ、設定したものである。

2. 達成目標について

項 目	目標の定義	令和 7 年度 目標値	令和元年度 実績値
若年層の献血者数の増加	若年層（16 才～39 才）の人口に対する献血者数の割合（献血率）	6.7% 〔参考〕 10 代 : 6.6% 20 代 : 6.8% 30 代 : 6.6%〕	5.7% 〔参考〕 10 代 : 5.5% 20 代 : 5.7% 30 代 : 5.5%〕
安定的な献血の確保	献血推進活動に協力いただける企業・団体の数	70,000 社	59,280 社
複数回献血の推進	年に 2 回以上献血された方（複数回献血者）の人数	1,200,000 人	983,351 人
献血 Web サービスの利用の推進	献血 Web 会員サービス「ラブラット」の登録者の人数	5,000,000 人	2,035,145 人

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下の事項について重点的に取り組んでいくこととする。

(1) 献血の普及啓発

広く国民に献血の意義を理解し、献血を行ってもらうため、効果的な普及啓発を促進する。

(2) 若年層対策の強化

① 10代への働きかけ

献血への理解を深めてもらうことにより、初めての献血を安心して行ってもらいたくため、SNSを含むインターネット等を主体とした情報発信を行うとともに、日本赤十字社が実施する献血セミナーなどの献血普及の取り組みを推進する。

② 20代・30代への働きかけ

献血率の減少傾向が続いている20代・30代の方が献血に協力しやすいよう、献血Web会員サービス「ラブラッド」の活用を促すなど、献血を体験した方が、長期にわたり複数回献血に協力してもらえるような普及啓発、環境整備に取り組む。

また、企業などへの働きかけを一層強化することにより、安定的な献血者の確保を図るとともに、予約献血の活用など献血者の利便性に配慮した新たな仕組みを検討する。

(3) 安心・安全で心の充足感が得られる環境の整備

献血は相互扶助と博愛精神による自発的な行為であり、献血者一人一人の心の充足感が活動の大きな柱となっている。献血に協力いただく方々が、より安心・安全に献血できるとともに、心の充足感を得られ継続して献血いただける環境整備を図る。

併せて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下においても、安心・安全な献血環境の保持と献血者への感染防止対策を講ずるとともに、様々な広報手段を用いて、感染防止対策を周知する。

また、以下の事項については、採血及び供給の動向及び原料血漿の確保並びに献血推進活動の普及効果をモニタリングする観点から、今後、継続的に注視する。

○献血実績及び供給実績の状況

○成分献血（特に血漿成分献血）の献血者数の年次推移

○実献血者におけるラブラッド会員の割合

※なお、中間年である令和5年度を目途に達成目標の実績値を確認し、必要に応じ見直すものとする。

先行して検討を進めている主要な製品・技術等の 官民投資ロードマップ素案

※本素案は、現時点の検討状況を報告するためのものであり、各WGにおいて引き続き議論・検討を深め、明確な目標設定や政策パッケージの具体化、今回提示していない官民投資の具体像や定量的インパクトの明確化等を行った上で、今夏の日本成長戦略の策定に向けて、官民投資ロードマップとして取りまとめる。

創薬・先端医療

18. 感染症対応製品

1. 現状認識と目指す姿【目標】

(1)現状

① 現状

- ・気候変動などの影響で動物由来の感染症が増え、大規模な流行やパンデミックの発生間隔は短くなっており、感染症リスクは確実に高まっている。
- ・製薬企業は国内外の製造所と連携して安定供給を担っており、我が国の製造現場は品質管理や供給の確実性が国際的に見ても高い水準にある。

② 取り巻く環境と構造変化

- ・感染症対応医薬品（ワクチン、治療薬、診断薬）は流行で需要が急変（感染症有事には、その感染拡大に応じて数兆円規模の需要が生じる）し、平素から安定供給体制の維持が極めて難しい。
- ・その上、抗菌薬は、原材料・原薬の調達が特定国に極端に依存する品目があり、国際分業の深化によりサプライチェーンは複雑化している。国際情勢次第で供給が途絶するリスクがある。
- ・免疫グロブリンは、原材料や製造能力不足により平時から国内自給できておらず、有事には大幅に不足する。
- ・感染症対応医薬品は、新型コロナ対応等を踏まえ、生産基盤を立て直し、国産化・サプライチェーン強化、有事に対応できる体制づくりが同時に進む移行期フェーズにある。

③ 戦略的・経済的な重要性

- ・戦略的重要性：供給が途絶すれば国民の生命に直結。原材料等を特定国に極度に依存する抗菌薬もあり、健康医療安全保障上、供給途絶リスクを低減する自律性確保が急務。
- ・経済的重要性：一部の海外メガファーマが撤退している抗菌薬等の新薬や我が国が強みを有する診断薬等の感染症対応医薬品を海外展開することで、一定の世界シェアを占めることが見込まれる。

(2) 目標

① 国内外で獲得を目指す市場

- ・抗菌薬等をはじめとする治療薬や診断薬の分野において、平素から国際的な薬事承認を踏まえ、25か国以上への国際展開を行う。
- ・重症感染症等に用いられる免疫グロブリンについて、血液法の基本理念を踏まえ国内自給率100%を目指すとともに、成長が続く海外市場を見据え必要に応じて海外供給（輸出）も可能とする。

② 達成すべき戦略的な目標

- ・次なる感染症危機において、全国民分（約1.2億人分）のパンデミックワクチン等を確保する。
- ・国内で重要な抗菌薬の海外からの供給途絶リスクに備え、製薬企業における原薬・原材料の備蓄を6か月分確保する。

2. 勝ち筋の特定と官民投資の具体像、定量的インパクト【道筋】

創薬・先端医療
感染症対応製品

(1)基本戦略

① 勝ち筋

- ・感染症対応医薬品は、平時は需要が小さい一方で、有事には需要が急増するため、生産体制を安定的に維持することが難しい。原材料・原薬の特定国依存や、製造能力不足が見られる医薬品もある。
- ・我が国は、供給計画遵守力の高さや生産技術、高精度・非破壊で工程管理を可能とする測定技術といった強みを有している。
- ・感染症対応医薬品の研究開発や製造施設の整備、ワクチン・抗菌薬等の買上げ・備蓄、安定供給に資する措置の推進、原料血漿確保体制の強化を持続可能な形で図ることを通じて、需要創出とともに生産体制を安定化させることで国内に供給するとともに、技術力を活かした高品質な製品を輸出する。

② 我が国として構築すべき機能

- ・需要急増に耐える十分な供給キャパシティと、それを支える適切な品質・工程・供給管理に基づく高い供給計画遵守力の堅持（平素からの安定した製造オペレーション）
- ・抗菌薬の原薬・原材料の備蓄を確保
- ・次なる感染症危機に備え、製薬企業における感染症対応医薬品の安定的な国内生産・供給能力を確保するための研究開発・生産体制の構築及び、需要に限られる平素から民間企業が安定的に投資を行える構造の確立
- ・免疫グロブリンの原料血漿確保体制の強化

(2)官民投資の具体像

① 投資内容

- ・感染症対応医薬品（原材料・原薬を含む）の研究開発支援や国内製造施設整備・国内生産体制確保
- ・製薬企業における抗菌薬の原薬・原材料備蓄の支援
- ・免疫グロブリンの原料血漿確保体制の確保

② 投資額・時期

（官民投資ロードマップの取りまとめまでに提示）

(3)定量的なインパクト

- ① 官民投資による経済波及効果
- ② 官民投資に付随する関連投資誘発効果

（官民投資ロードマップの取りまとめまでに提示）

3. 官民投資促進に向けた課題と政策パッケージ【政策手段】

(1)投資促進に向けた課題

①リソース制約

- ・ 人材：製造・品質管理、サプライチェーン管理に携わる人材の確保

②不確実性の要因

- ・ 市場：感染症の流行・収束による需要の上下変動により安定収益モデルの構築が困難
- ・ 財務：物価高騰に伴う建設費・機器費の増加
- ・ 国際環境・政策：原材料調達の特定期偏在

(2)講じるべき政策パッケージ

①国内投資支援

- ・ 自動化やフロー合成・連続生産などによる生産効率向上、我が国の技術力を生かせるPAT分析（ラマン分光法※）等による製造・品質管理に係る新技術の活用を推進する。
※低出力の光で非破壊かつリアルタイムに工程を監視できる技術
- ・ 新型コロナワクチンを始めとした健康危機管理上必要な感染症対応医薬品等生産体制を構築・維持する。
- ・ 献血の啓発や献血ルームの整備などの原料血漿確保体制の強化と併せ、免疫グロブリンの製造施設の更なる整備促進を図る。
- ・ 最新の医療環境やサプライチェーンの状況、国内製造状況等も踏まえ、抗菌薬等の感染症対応医薬品について、経済安保法の特定重要物資への追加の検討を行う。
- ・ 原材料及び原薬供給ルートが多角化を図る製品について、安定供給に資する更なる措置を検討する。

②需要創出・市場確保・社会実装支援

- ・ 感染症有事の発生に備えるため、感染症危機対応医薬品等（ワクチン、治療薬、診断薬等）開発・生産体制強化戦略の策定により、研究開発から、事業予見性の確保につながる買上げ・備蓄等の一連の取組を推進する。さらに、その他有事に備えた医薬品備蓄を推進する。
※感染症危機対応医薬品等とは、感染症対応医薬品のうち、特に公衆衛生危機管理において、救命、流行の抑制、社会活動の維持等、危機への医療的な対抗手段となる重要性の高い医薬品等
- ・ 製薬企業による国産抗菌薬の原薬・原材料の6か月分の備蓄を支援する。
- ・ 新技術の導入に関し、規制要件を整理するとともに、査察当局の協力枠組みであるPIC/Sや医薬品規制調和国際会議（ICH）等の活動を通じた国際規制調和を進める。
- ・ アジアへの規制理解を進めるPMDAアジア医薬品・医療機器トレーニングセンターにより国際規制調和の成果の普及を図る。

③競争力強化

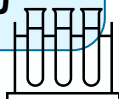
- ・ 実生産設備を利用した実践的な研修プログラムなどを通じて、製造人材を育成し確保する。
- ・ 後発医薬品の品目統合による業界再編を促進する。

方向性

- ・ 我が国は、供給計画遵守力の高さや生産技術、測定技術等の強みを有している。
- ・ 感染症対応医薬品の研究開発や製造施設の整備、ワクチン・抗菌薬等の買上げ・備蓄、安定供給に資する措置の推進、原料血漿確保体制の強化を通じて、安定的に需給を確保することで国内に供給するとともに、技術力を活かした高品質な製品を輸出する。

【強み】

優れた生産技術・測定技術
高い供給計画遵守力



【課題】

- ・ ワクチン等の感染症対応製品は、平時と有事の需給変動が大きい
- ・ 抗菌薬は、原材料等を特定国に極度に依存
- ・ 免疫グロブリンは原材料・製造能力不足により平時から国内自給できていない

安定的な需給の確保

【講じるべき施策】

- ・ **買上げ・備蓄支援（製薬企業における国産抗菌薬の原薬・原材料の備蓄支援等）**
- ・ **免疫グロブリンの原料血漿確保体制の強化等**
- ・ **感染症対応医薬品の研究開発や製造施設の整備**

【目指すべき姿】

- ・ 国内に安定的に供給
- ・ 技術力を活かした高品質な製品を輸出

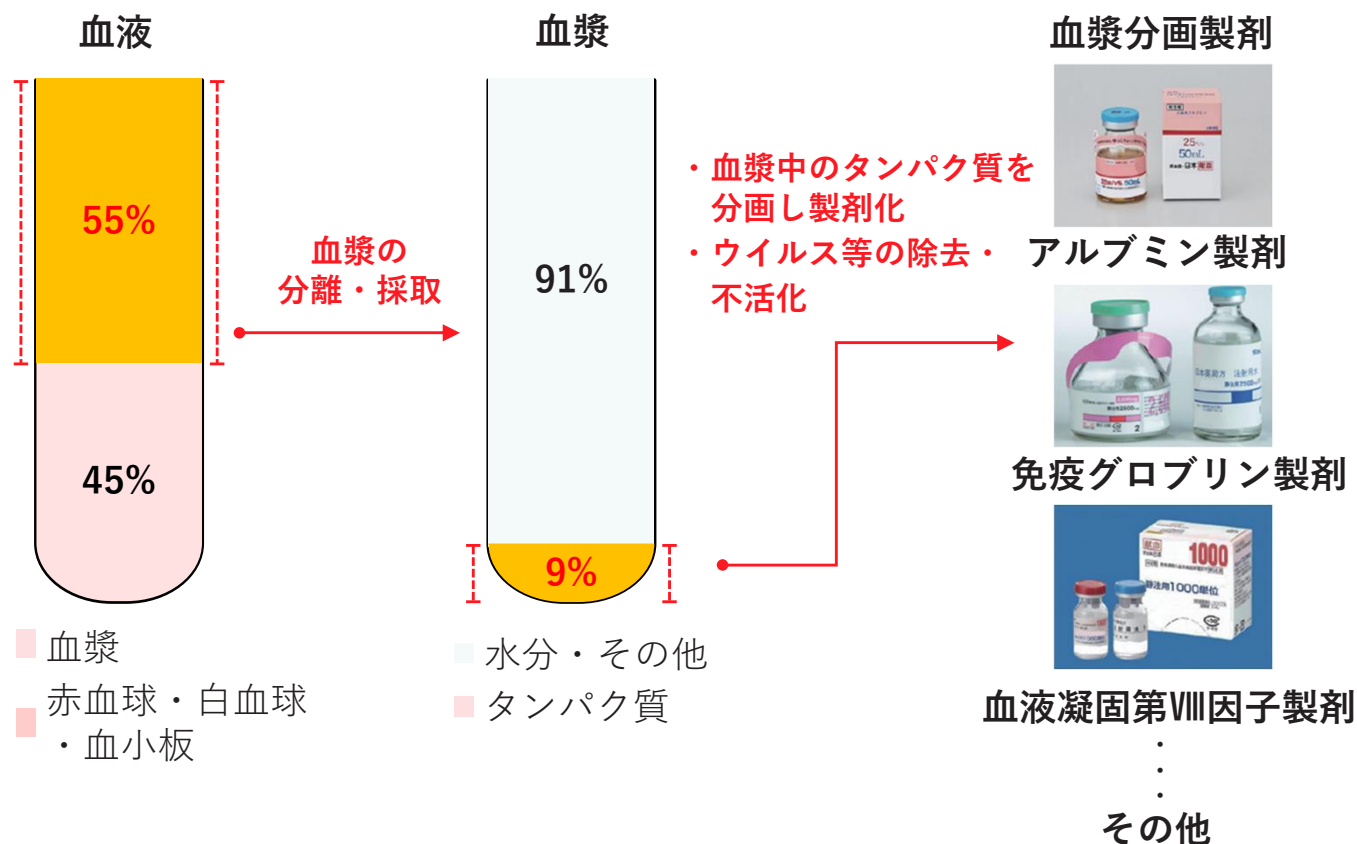
【目標】

- ・ 抗菌薬等の25か国以上への国際展開
- ・ **免疫グロブリン国内自給率100%**

免疫グロブリン製剤とは

貴重な血漿分画製剤¹⁾

- 血漿分画製剤は、人の血液から分離された血漿を原料とする医薬品であり、血漿中のわずかに含まれるタンパク質を精製して製造されるたいへん貴重な医薬品です。



■ 免疫グロブリン製剤が用いられる疾患²⁾

疾患	患者数
重症感染症	27,000
原発性免疫不全症候群 (比較的頻度の高いX連鎖 無ガンマグロブリン血症の患者数)	300
慢性炎症性脱髄性多発神経炎/ 多巣性運動ニューロパチー	5,100
視神経脊髄炎	6,500
天疱瘡	3,200
類天疱瘡	7,000
川崎病 ³⁾	10,333 (2022年診断数)
免疫性血小板減少症 (毎年 約3,000人が罹患)	20,000
皮膚筋炎／多発性筋炎	25,000
重症筋無力症	29,210

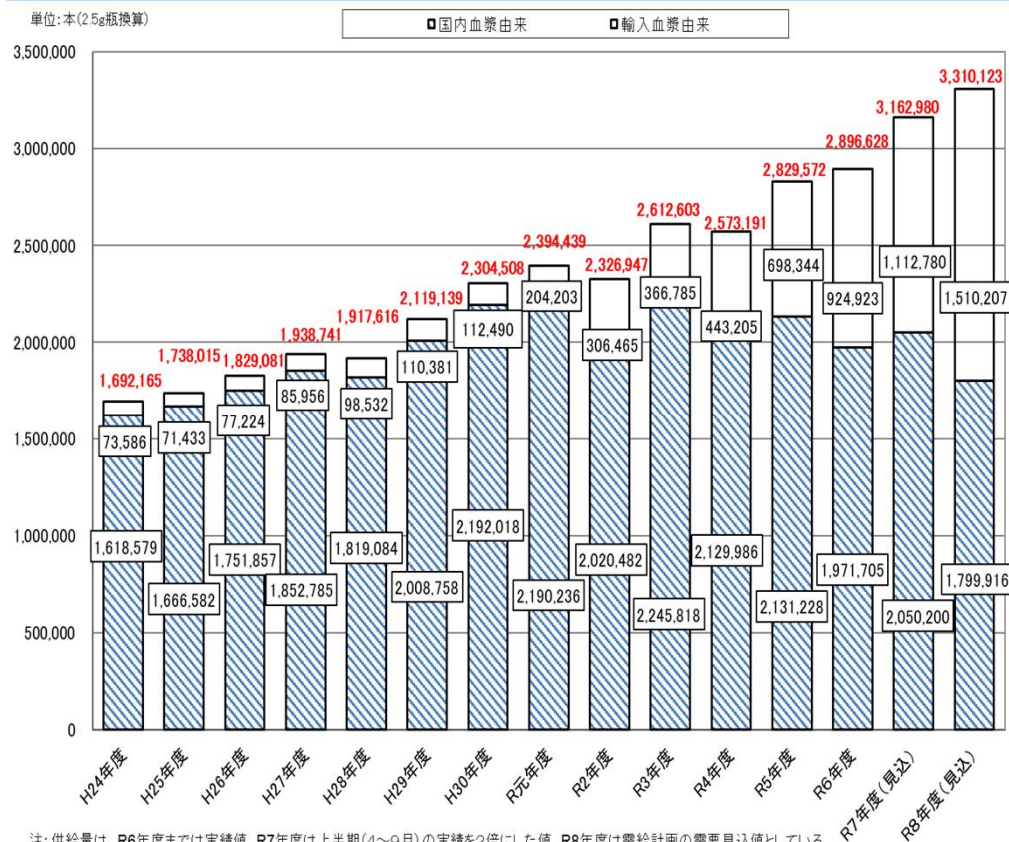
1) 厚生労働省 医薬局 血液対策課「令和7年度血液事業報告」(一部改変)

2) 難病情報センター 3) 日本血液製剤協会

免疫グロブリン製剤の需給状況について

- 医療現場からの要望を踏まえ、効能追加により多様な医療ニーズに貢献してきた結果、免疫グロブリン製剤の医療需要、供給量は増加傾向が続いている。
- 現在、国内血漿由来品は製造量が限界に達しており、需要に応えるため海外からの輸入量を増やすとともに、安定供給の確保に向けて国内事業者に対して血漿分画製剤安定供給・国内自給体制整備事業を実施している。

グロブリン製剤の供給量の推移



人免疫グロブリン製剤の自給率の推移(供給量ベース)

